HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	北海道大学附属図書館年報
Issue Date	2014-08
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/66862
Type	journal
File Information	nenpo2014.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

北海道大学附属図書館年報 2014

Hokkaido University Library
Annual Report

Contents

館長巻頭言 …… 1

Topics

1. 学習教育支援 …… 2

2. 研究支援 …… 7

3. 社会貢献 …… 11

4. その他 …… 14

平成 26 年度重点項目 …… 16

連携事業 …… 17

活動日誌 …… 18

職員研修 …… 22

統計 …… 23

図書館委員会名簿 …… 27

事務組織 …… 28

人事往来 …… 29

北海道大学附属図書館のミッション

附属図書館は、北海道大学の４つの基本理念「フロンティア精神」「国際性の涵養」「全人教育」「実学の重視」に基づき、人類の知的資産である学術情報の集積・提供・発信を行い、未来に向けて、知の交流・創成の場として機能する。その実現のために、以下の目標を掲げる。

教育学習支援

豊かな情報資源と快適かつ刺激的な学習空間を提供し、自ら学び、課題解決に取り組むことのできる学生の育成を支援する。

研究支援

世界水準の研究を推進するため、本学の研究者が必要とする情報資源を持続的に利用できる環境を整備する。また、本学の研究成果の保存と発信に責任を負う。

社会貢献と国際化

北海道地区における唯一の総合大学の図書館として、他図書館に対する支援を行い、地域住民の生涯学習を支援する。また、海外の大学図書館と協力関係を構築し、交流を推進する。

組織運営

学生、教職員及び研究者と連携・協働し、大学における教育研究支援機能を強化する組織づくりを目指す。図書館職員は図書館や学術情報流通に関する専門性に加え、大学を取り巻く社会の環境変化に対応できる専門性を磨く。

館長巻頭言

附属図書館年報の発刊に当たって

附属図書館長
新田　孝彦

北海道大学附属図書館の起源は、1876 年（明治 9 年）、札幌農学校の開校と同時に設置された「書籍室」にあり、1891 年（明治 24 年）に書籍館主任に就任した新渡戸稲造をもって初代館長としています。以来、附属図書館は、大学の発展と歩みをともにし、現在では総蔵書数 380 万冊余り、電子ジャーナル購読件数約 2 万点、年間来館者数 160 万人余りを誇る我が国有数の大学図書館にまで成長してきました。

附属図書館の使命は、言うまでもなく、学術情報基盤の中心をなす組織及び施設として、大学の教育・研究・社会貢献を支えるところにありますが、その具体的な在り方は、時代の要請に応じて変化します。大学自体が激烈なグローバル化の渦中にあり、国際的な大競争時代に突入したいま、図書館の果たすべき役割もまた、グローバル人材の育成や世界最先端の研究の推進を支援するというところに重点を置く必要があります。

ところで、本学は、創基 150 周年を 12 年後に控えた 2014 年、「北海道大学創基 150 年に向けた近未来戦略（北大近未来戦略 150）」を制定し、「世界の課題解決に貢献する北海道大学へ」をスローガンに、今後本学が進むべき道筋を内外に明らかにしました。もとより、この中では学術情報基盤の整備・充実が謳われていますが、図書館にとってより重要なのは、世界の課題解決に貢献する研究推進と人材育成のために立案されたさまざまな計画を着実に実行するために、図書館がどのような貢献をなし得るのかが問われるということです。しかし、「北大近未来戦略 150」が目指す方向は、われわれが独自に定めた附属図書館のミッションと、実はぴったりと重なり合います。附属図書館は、これまで蓄積してきた経験を元にしつつも、それを超える新たな発想を大胆に付け加えることによって、学生と教員に対する支援をよりいっそう強化すべく、全職員が一体となってミッションの遂行を期したいと考えています。

とは言え、「千里の行も足下より始まる」という古人の言葉のように、遠い目標の達成も日々の具体的な行為の積み重ねによってのみ可能となります。つねに自分たちが行ってきたことを振り返り、改善修正すべきことやさらに推進しなければならないことを自ら把握することは、われわれの業務の基本であり、またそれを公開することは、ステークホルダーに対する責務でもあります。これまで、附属図書館は『概要』を公表することでこの責めを果たしてきましたが、統計情報の集積に時間がかかることなどから、どうしても公表の時期が遅くなりがちでした。そのため、昨年度からこれを改め、図書館全体の概要紹介と活動の詳細な記録とを別立てにすることにしました。創刊号に当たる本年報は、平成 25 年度の活動報告となります。附属図書館がどのような活動を行ってきたかをご理解いただくとともに、今後の活動に向けて、忌憚のないご意見をいただければ幸いです。

1 学習教育支援

A 学習環境の充実

（1）土日祝日開館時間延長、早朝開館試行

土・日・祝日の開館時間の延長、および、1講時の予習・準備や、早朝からの学習・研究などに対応するため、本学の学生、教職員を対象に平日の早朝開館を試行した。

これにより年間の開館時間は、前年度よりもおよそ200時間増加した。

・土日祝日開館時間延長

［土・日・祝日］（平成25年4月6日（土）から開始）
通常期間：9：00～19：00　（従来9：30～19：00）
試験期間：9：00～22：00　（従来9：30～19：00）
休業期間：9：00～17：00　（従来9：30～17：00）

・平日早朝開館試行

［平日］（平成25年10月1日（火）から開始）
通常・試験期間：8：00～22：00　（従来9：00～22：00）
※学外者の利用は従来どおり9時からの受付。朝9時までの時間帯は一部の施設・サービスのみ利用可。

早朝開館試行ポスター

（2）オープンエリア拡充等本館南棟のリニューアル

本館南棟をリニューアルし、フロアごとのゾーニングにより、オープンエリアやサイレントエリアといった、学習環境と閲覧環境の区分けを明確にした。

2階は全てオープンエリアとして、個人はもちろん、数人のグループでディスカッションをしながら学習をすることができるスペースとした。勾玉型の机は組み合わせ自由で、ホワイトボードも複数台常設した。2階・3階ではPCも使用可能とし、ELMSの無線LANも使用できるようにした。

4階・5階はすべてサイレントエリアとして、PCや電卓など、音の出る電子機器は使用禁止とした。これにより、静かに集中して勉強する環境を確保した。

オープンエリア　勾玉型の机を自由に組み合わせてグループ学習

オープンエリア　メモ台付椅子とホワイトボードでミニ講義

B 情報リテラシー教育

（1）初年次学生の授業支援：「図書館情報入門」

「図書館情報入門」は、学術文献の効率的な検索方法の習得を学習の目的として、初年次学生対象の少人数クラス演習科目「一般教育演習（フレッシュマンセミナー）」担当教員から希望を募り、依頼のあった講義の1コマ（90分）を利用して行っているもので、合計49回実施し初年次学生の約4割にあたる1,000人が受講した。

少人数クラスである利点を活かし、授業にあった検索例題や教員の要望によるカスタマイズにより、学生が受講している授業と関連した内容とすることで、より理解が深まることを目指している。

参加者の感想：

99%の学生が内容について「今後の大学での勉強に役立つ」と回答している。

（2）個別の授業やゼミへの支援：「文献探索ワークショップ」

教員からの申込による「文献探索ワークショップ」は、個別の授業やゼミへの支援を目的とする完全オリジナル型の講習会であり30回実施した。講習会の周知活動の強化やホームページに専用申込フォームを設けるなどにより、実施回数は増加を続けている。

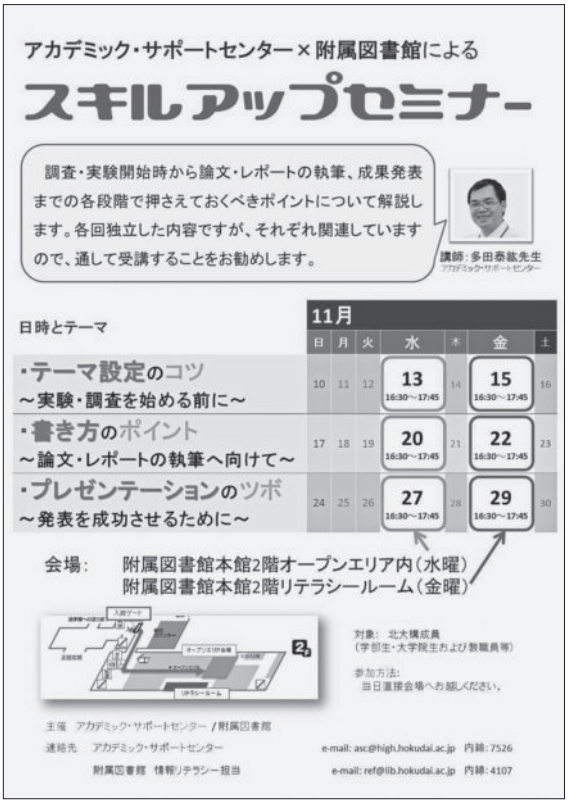
文献探索ワークショップの様子

（3）大学院生向け外部の専門インストラクターによる支援：「各種データベース講習会」

「SciFinder」「LexisNexis Academic」等の専門的高度なデータベースや文献管理ソフト「EndNote」について、外部の専門インストラクターがレクチャーする講習会を実施し、合計31回開催し405人が受講した。

（4）アカデミック・サポートセンターとの協働：「スキルアップセミナー」

情報リテラシー教育は、スタディ・スキル、アカデミック・スキルの中核を成すものであり、これらのスキル全体の向上を支援するには附属図書館と学習サポート組織であるアカデミック・サポートセンターとの連携が不可欠であると考え、協働して「スキルアップセミナー」を開催した。レポート・論文のテーマ設定の仕方・書き方、プレゼンテーションなどのライティングのコツを指導するセミナーを合計12回開催し81人が受講した。



スキルアップセミナーポスター

C グローバル人材育成：「新渡戸カレッジ」支援事業

平成 25 年度に開校した特別教育プログラム「新渡戸カレッジ」を支援する目的で WG を立ち上げ、グローバルな人材を育成する一助となることを目指して、学生が海外で学び、働く意欲を持つ動機付けとなるような事業を実施している。

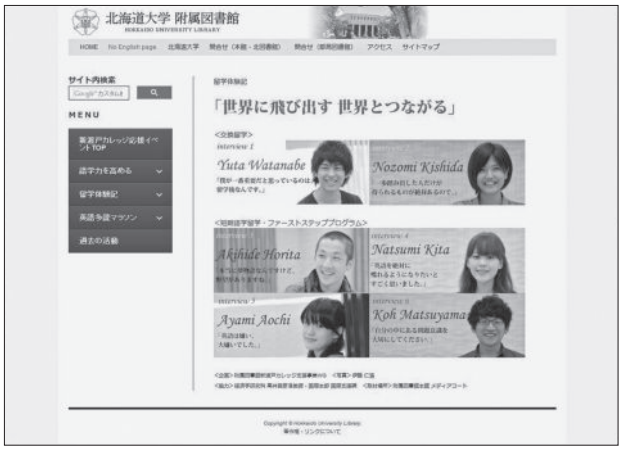
行った主な事業は次のとおり。

（1）語学学習室利用促進キャンペーン

ポスターを作成、掲示し、本館・北図書館に設置されている語学用学習室の利用促進キャンペーンを展開した。

（2）「Girls and Boys, Be Global!!」（留学経験者インタビュー）

留学を経験した先輩学生 6 名にインタビューし、その経験談や役に立った図書、後輩へのメッセージなどをポスター、ホームページで公開した。また、7 月 2 日（火）から 16 日（火）まで北図書館 3 階留学生図書コーナーにおいて、先輩から紹介された図書や世界を目指す参考となる資料を展示した。



「Girls and Boys, Be Global!!」（留学経験者インタビュー HP）

（3）「世界で働く」講演会・展示

10 月 30 日（水）、人文社会科学総合教育研究棟（以下 W 棟）W103 教室において、世界で働くことを目指す学生に向けて、国際機関で勤務経験のある国際本部の玉城英彦先生、正木幹生先生を講師に招き講演会を開催した。参加者は 211 名、うち新渡戸カレッジ生は 22 名だった。本学ばかりではなく、近隣の大学・高校からも多数訪れた。

これに併せて、10 月 18 日（金）から 31 日（木）まで本館 2 階オープンエリアでは、キャリアデザインを考えるための図書や国際協力に関する資料、国際機関の報告書類を展示した。

「世界で働く」講演会の様子

（4）「世界で学ぶ」講演会

11 月 27 日（水）、W 棟 W103 教室において、世界で学ぶことを目指す学生に向けて、本学の協定校である米国マサチューセッツ大学アマースト校図書館からライブラリアンのシャロン・ドマイヤー氏を講師に招き、留学に当たっての心構えや身に付けておくべきスキルについて英語による講演会を開催した。参加者は 93 名、うち新渡戸カレッジ生は 11 名。

参加者の感想：

分かりやすく説明してくれ英語もちゃんと理解できた。

（5）「めざせ 100 万語！英語多読マラソン」

7 月 23 日（火）から 2 月 28 日（金）まで、英語担当教員と連携して、初学者から上級者まで自分のレベルに合わせて読み進めていく英語多読学習法を支援する企画「めざせ 100 万語！英語多読マラソン」を実施した。北図書館では多読教材を約 4 千冊所蔵しており、学習に活用してもらうことで貸出冊数も増加した。

登録を申請した参加者には、設定された「10 万語」「20 万語」など区切りの語数を達成の都度「達成証」を贈呈した。参加登録者数は 93 名、100 万語達成者は 2 名だった。

（6）英語学習アドバイザー

11 月 18 日（月）から 2 月 21 日（金）まで、北図書館閲覧室内に「英語学習アドバイザーデスク」を設け、英語の堪能な大学院生（外国人留学生（中国）2 名・博士後期

課程）を採用し TOEIC・TOEFL などの試験対策や英語学習に関するアドバイスを行った。また、定期的に読書会を開催し、グループで英会話を実践する機会も設けた。相談者の延べ人数は 70 名。

英語学習アドバイザーの様子

D　学生と協力した図書館づくり：学生協働 WG

（1）学生サポーター提案による図書館サービスの拡充

事前に図書館に登録をした北大生に、図書館が開催する各種イベントに、企画、運営から参加してもらう学生サポーター制度を開始した。登録者数は 25 名であり、学生サポーターからの提案により図書館サービスの拡充を図った。

- **書庫ガイダンスの日時変更と広報活動**

「書庫を他の学生にもっと使ってもらいたい」、そのような学生サポーターの意見から、書庫ガイダンスの日時について夕方の時間帯を増やすように変更した。また、広報活動として、ポスターによる呼びかけも行った。

書庫ガイダンスポスター

- **7 カ国語版図書館利用案内の作成**

「留学生にも図書館を使って欲しい」、そのような留学生の学生サポーターの発案により、7 カ国語版の図書館利用案内をサポーターと協働で作成し配布した。

7 カ国語版の図書館利用案内

（2）学生サポーターとの協働イベント

〈日・EU フレンドシップウィーク〉

日・EU フレンドシップウィークの一環として、6 月 6 日（木）～ 6 月 28 日（金）、「Hello ！ EU―学生による、学生のための EU の本」をテーマに、本図書館が所蔵する資料の中から、学生サポーターが推薦する「EU をより深く知ることのできる 1 冊」を選定し、オープンエリアにおいて展示した。

資料にはいずれも学生サポーターによる推薦コメントが添えられた。また、展示会場の飾り付けやポスター作成も学生サポーターが担当し、人目を引くデザインに足を留め、展示資料を手に取る利用者の姿が多く見られた。

また、6 月 17 日（月）～ 21 日（金）の昼休みの時間に、本図書館が所蔵する視聴覚資料から学生サポーターが EU にちなんだ音楽を選び、メディアコート内において日替わりで放送を行った。

学生サポーターの推薦により決定した放送内容は民族音楽、映画音楽、クラシック、ポップスと多岐にわたり、音楽を通して EU の多様性を感じることのできるイベントとなった。昼休み限定の鑑賞会であったが、弁当を囲んで歓談しながら音楽を楽しむ利用者の姿が多く見られた。

日・EU フレンドシップウィーク

〈サステナビリティ・ウィーク〉

北海道大学サステナビリティ・ウィーク 2013 の一環として、10 月 30 日（水）～ 11 月 10 日（日）、北図書館において「サステナビリティって、なに？」と題した展示会を開催した。

学生サポーターには、北大生に「サステナビリティ」という概念への理解を深めてもらうための資料の推薦とコメント文の作成、サステナビリティとは何かを解説するポスターの作成、そして、展示作業等を担当してもらった。

サステナビリティ・ウィーク

この展示において、サステナビリティ関連資料の活用を

図るとともに、サステナビリティ・ウィーク 2013 の展開テーマである「持続可能な社会の構築に向けた学び」を促進することができた。

〈選書ツアー＆展示〉

10 月 22 日（火）及び 10 月 25 日（金）の二日間において、学生サポーターが書店へ行き、図書館に置きたい本、自分が読みたい本、友達に読んで欲しい本を直接自分の目で見て選ぶ選書ツアーを行った。

ツアーで選んだ本 200 冊は、オープンエリアで紹介する展示会を開催した。レイアウト、ポップ作成、飾りつけ等すべて各サポーター自身が行った。

展示された図書の貸出状況は良好であり、学生の視点で選書し、また展示を行うことにより、他の学生に図書に対する興味を持たせ、読書を促すことに繋がった。

選書ツアー＆展示

（3）学生サポーター協力による広報誌のイメージチェンジ

図書館広報誌の「楡蔭」に、表紙等への撮影協力、記事「私の本棚」への投稿など学生の写真や生の声を掲載することで、学生へのメッセージ性がより強い広報誌へとイメージチェンジを図った。

E　障がいのある学生への支援

障がいのある学生への支援を検討する目的で、毎月 1 回、特別修学支援に関わる教員と学生、障がいのある学生と共に修学支援懇話会を開催した。

修学支援懇話会は、障がいのある学生からの「身体に障がいがあるため、印刷体資料を読むことは困難だが、電子書籍をタブレット端末で読むことは可能であるので、図書館の資料を電子化して提供してほしい」という要望を、教育学研究院の教員が図書館に伝えたことに始まっている。

要望を受けて、図書館における設備や支援の不足を見直すと共に、支援方法として資料の電子化が有効であることを認識し、このことについての法的、技術的な課題解決に向けた検討を進めた。

また、資料の電子化の試行に取り組むと共に、WEB の利用案内に専用ページを開設し、さらに、「障がいのある学生の図書館での仕事体験」(短縮版インターンシップ）を実施した。

F　インターンシップの実施

8 月 26 日（月）から 9 月 3 日（火）まで、3 名の学生を受け入れ、教育の一環として、高い職業意識の育成や学習意欲の向上、本学に対する理解を深めることを目的としたインターンシップを実施した。

7 日間という短い期間ではあったが、

①図書・雑誌の受入・保存業務
②電子ジャーナルの契約業務
③機関リポジトリ（HUSCAP）の登録業務
④レファレンス業務
⑤図書の貸出・返却などのカウンター業務
⑥情報リテラシー業務

など、ほぼ全ての図書館業務を実習した。

最終日には実習で学んだ内容や図書館への感想・意見などをまとめ、プレゼンテーションをした。

図書の貸出・返却実習

プレゼンテーションの様子

2 研究支援

A 研究者向け講習会の実施

(1)「若手研究者のための Author Workshop ～アクセプトされる論文を書くために～」

6 月 11 日（火）、「若手研究者のための Author Workshop ～アクセプトされる論文を書くために～」を理学部 5 号館大講堂で開催した。

このワークショップは、創成研究機構 URA ステーション及びエルゼビア・ジャパン株式会社との共催により、研究テーマ設定から国際誌への投稿までを若手研究者に向けて解説し、研究成果を論文で世界に向けて発信するための支援を目的とした。全体で 157 名の参加があった。

参加者の感想：

・非常に参考になった。研究を続けるモチベーションとなる良い機会であった。
・今後もこのような機会を増やして欲しい。

ほぼ満員となった理学部大講堂

(2)ワークショップ「ビブリオメトリクスと研究評価」

9 月 20 日（金）、ワークショップ「ビブリオメトリクスと研究評価」を大会議室で開催した。

このワークショップは、創成研究機構との共催により、研究者、研究支援に係る教職員及び大学図書館職員を対象として、研究評価の客観的指標とされるビブリオメトリクス（計量書誌学）と、ソーシャルメディア上の反応を取り込む手法により新たな研究評価指数として注目されるオルトメトリクスについて学ぶことを目的とした。ワークショップには本学教職員のほか、学生、一般の方など約 30 名の参加があった。

参加者の感想：

・最新の情報を得られて有意義だった。
・研究者の社会に対する影響を数値化するオルトメトリクスに今後着目したい。

(3)「英語論文執筆セミナー」

10 月 22 日（火）、「英語論文執筆セミナー」を大会議室で開催した。

このセミナーは BioMed Central との共催により Open Access Week 企画として英語論文を執筆し投稿から掲載されるまでのノウハウを学ぶことを目的とし、4 つの講演の後、英語論文執筆のための個別相談会を実施した。セミナーには大学院生・研究生を中心に 43 名の参加があった。

参加者の感想：

・英語論文の具体的な書き方について分かりやすく教えてもらえて良かった。
・国際誌に論文を投稿するノウハウが役に立った。
・オープンアクセスの話題は新しい知識が得られて良かった。
・最近では論文個々で評価されることが大事であることを知ってオープンアクセスの重要性を感じた。

(4) セミナー「加速化するオープンエデュケーション」

12 月 9 日（月）、セミナー「加速化するオープンエデュケーション」を W 棟 W409 室で開催した。

このセミナーは、教育改革室、情報基盤センターとの共催により、教育学習支援に関わる教職員及び大学図書館職員を対象として、ICT 技術を利用し大学や国の枠を超えて学習の高度化を図るオープンエデュケーションの流れが世界的に加速しつつある中、図書館や機関リポジトリが果たすべき役割について多角的に考えることを目的とした。セミナーには本学教職員のほか、道内の国公私立大学職員や一般の方など約 60 名の参加があった。

参加者の感想：

・道内の教養教育連携は他に先駆けた興味深い取り組みであると思う。
・著作権の新しいルール作りが重要になるのでは。
・オープンエデュケーションをめぐる状況を改めて整理・理解することができた。

B 学術研究コンテンツの整備

（1）バックファイルの整備について

電子ジャーナルバックファイルの整備充実によって、研究者は、カレントな研究成果だけでなく過去の研究成果にもオンラインでシームレスにアクセスすることが可能となり、教育研究活動の活性化が期待できる。本学では、同規模の他大学に比べて整備が遅れていたバックファイルについて、今後、電子ジャーナルを購入する特定経費とは別の方策により整備を進めることとし、具体的な整備計画を策定した。この計画に基づいて予算要求を行ない、Nature 未導入バックファイル（1869 － 1986 年分、文献数 291,879 件）ScienceDirect 未導入バックファイル（12 分野、文献数 2,031,603 件）を総長室裁量経費（約 4,900 万円）により買取方式で導入した。これによってオンラインでアクセスできる文献数が 2,323,482 件増加した。

（2）平成 26 年度学術研究コンテンツの整備について

平成 24 年度に了承された、平成 26 年度学術研究コンテンツの選定方針に基づき、電子ジャーナルについて、中止基準に定める費用対効果が良好でない等の条件に該当する個別契約誌 16 点、パッケージ契約 1 点、合計 17 点の特定経費による購入を中止した。一方で必要性が高く、既に部局経費で良好な利用実績がある等、新規導入の判定基準を満たす電子ジャーナル 5 点を新たに特定経費で購入することとした。

（3）平成 27 年度学術研究コンテンツの整備について

学術研究コンテンツ整備の一定の水準を維持しつつ、増大する経費の節減に対応するため、平成 27 年度の学術研究コンテンツの中止の候補となる判定基準を以下のとおり改正した。

・電子ジャーナル中止候補の判定基準について、「前年度と前々年度の特定経費負担額合計÷前年度と前々年度のアクセス数合計」による基準の中止候補対象を「2,500 円以上」から「2,000 円以上」に改めた。アクセス数取得不要タイトルについても希望部局数が 1 の場合、インパクトファクターがカテゴリー内の「半分以下」を中止候補対象としていたが、「Q1 グループ（上位 25％）以外」に改めた。

・データベース中止候補の判定基準について、「前年度と前々年度の特定経費負担額合計÷前年度と前々年度のアクセス数合計」による基準の中止候補対象を「2,000 円以上」から「1,500 円以上」に改めた。

C 学術成果刊行助成

本学では、学術的価値が高く、かつ、独創的な著作物の刊行を促進し、学術研究成果の社会への還元及び学術の国際交流の推進に資することを目的として、平成 20 年 5 月に「学術成果刊行助成」を創設した。助成の対象は図書及び文系欧文誌の刊行である。本図書館は平成 24 年度から事務担当という形で関与している。

図書については 5 件の申請があり、そのうち 1 件を採択した。また、欧文誌については、文系 8 部局を対象に募集を行い、以下の 3 誌について採択した。

・Eurasia Border Review（スラブ研究センター）
・Journal of Applied Ethics and Philosophy（文学研究科）
・Intellectual Property Law and Policy Journal（情報法政策学研究センター）

11 月に平成 24 年度採択分の図書である朴鍾碩氏の『北朝鮮経済体制の変化』を北海道大学出版会から刊行した。

これまでに図書を 9 冊、欧文誌を 3 誌刊行している。刊行した著作は、本館の教員著作物コーナー及び北図書館で利用可能である。また、欧文誌については機関リポジトリ「HUSCAP」に掲載し、国内外へ発信している。

D 機関リポジトリ北海道大学学術成果コレクション（HUSCAP）

「北海道大学学術成果コレクション（HUSCAP）」は、本学に所属している研究者（大学院生を含む）の研究論文、学会発表資料、教材等を電子的に保存し後世へ継承するとともに、インターネットを通じて全世界に提供する電子コレクションである。学術雑誌に掲載された研究論文、研究科等が発行する紀要等を中心に登録・公開している。

（1）登録公開状況

新規登録公開は 2,413 件。公開総数は 43,037 件、累積ダウンロード数は 27,283,981 回である。

（2）博士論文公表

学位規則の一部改正により博士論文のインターネット公表が義務化されたことに伴い、本学では博士論文と博士論文の内容の要旨及び審査の要旨を HUSCAP に登録し、公開している。3 月末現在、授与 486 件のうち全文公表は 344 件であった。

また、博士論文のインターネット公表についての周知と、著作権に関する情報提供のために「博士論文のインターネット公表」相談ホットラインを設け、教員・学生への支援を行っている。

（3）広報活動

HUSCAP 及びオープンアクセスの周知にむけた以下の広報を実施した。

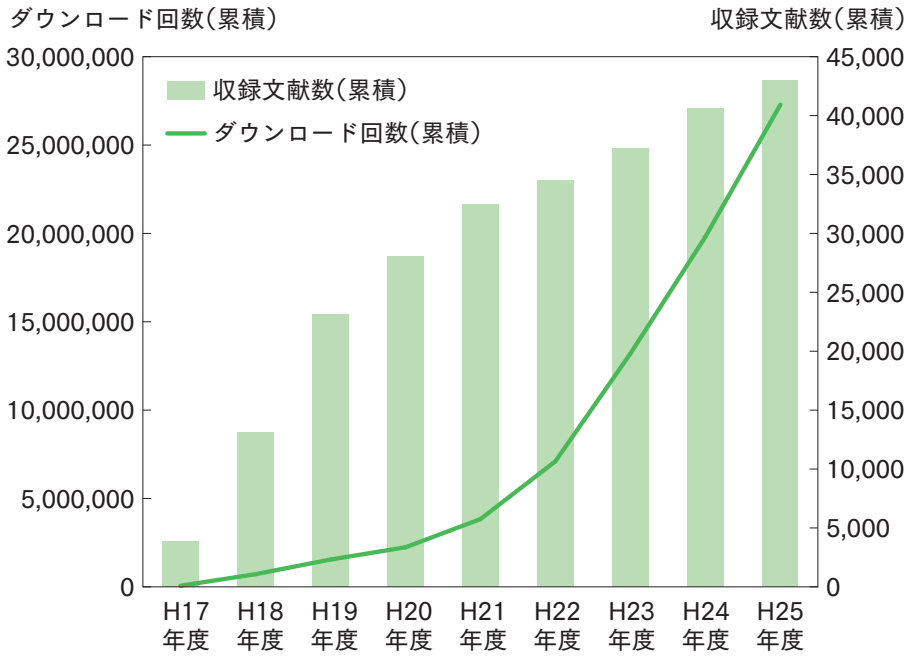
①研究室訪問等による教員への働きかけ

②ポスター展示「学術成果のオープンアクセスと HUSCAP」をサステナビリティーウィーク及びオープンアクセスウィーク期間である、10 月 21 日（月）～ 11 月 4 日（月）に開催

③広報誌 HUSCAP レター発行

また、Web of Science で捕捉した本学研究者著作論文について、部局図書担当者による提供依頼作業を開始し、全学体制によるコンテンツ拡大と研究支援体制の充実を目指した。

収録文献数及びダウンロード回数（累積）



E　北方資料収集、電子化

北方資料とは、北海道のほか樺太、千島列島、アリューシャン列島、ロシア極東地方、シベリア・アラスカ・北氷洋など北太平洋とユーラシア北部の全域にわたる蒐集資料群であり、本図書館のユニークなコレクションの一つとなっている。

北方資料は現在も広く収集しており、北海道関係の新刊図書や古書店からの地図や古書購入も含め 481 点を受け入れた。そのうち本学所蔵の北方資料を掲載した贈呈本等の寄贈図書が 387 点を占めた。

蓄積した資料は、必要な情報へのアクセスの確保と適切なナビゲーションの構築に配慮した「北方資料データベース（北海道大学北方関係資料総合目録）」として、蔵書目録と電子化資料を公開している。

北方資料の電子化は、北方貴重資料の約 48,000 点をほぼ終了し公開した。ガラス乾板資料も約 2,000 点のうち 1,400 点ほどを笹川科学研究助成金により電子化し、公開予定となっている。

館脇操氏撮影　静狩湿原

F　遡及入力事業

遡及入力事業は、図書業務の電算化（昭和 61 年）以前に受け入れた資料について、遡って蔵書目録データベース化する事業であり、昭和62年に第1期を開始した。

現在、第 6 期が進行中である。第 6 期計画の特徴と平成 25 年度の入力冊数は、以下のとおりである。

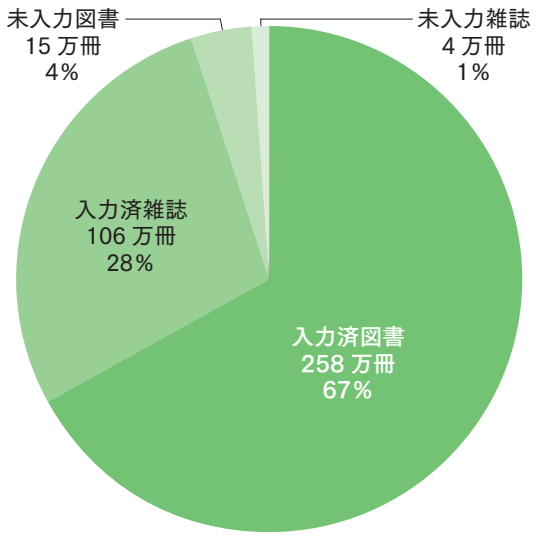
(1) 目録カードからの遡及入力は行わず、現物からの入力のみとした　15,594 冊
(2) 対象資料として、製本雑誌、未整理図書、未承継図書を加えた　11,981 冊
(3) 書誌・所蔵データの品質向上作業を含めた　8,156 冊

合計　35,731 冊である。

実施した主な部局は、本館、文学部、経済学部、農学部、教育学部、工学部、スラブ研究センターとなっている。

全蔵書約 383 万冊のうち 95％が入力済となり、残るは 5％の約 19 万冊である。100％入力完了をめざし、遡及入力事業を進めている。

蔵書 383 万冊の入力状況



3 社会貢献

A 北方資料の公開

（1）放映・掲載許可件数

全国からの依頼に対する放映や写真などの掲載許可件数は 207 件あり、資料点数としては 992 点であった。内訳は以下のとおり

・放映許可件数： 49 件　　資料数：307 点
・掲載許可件数：158 件　　資料数：685 点

利用の多かった資料は、以下のとおり

資料名	請求記号	許可件数
1 松前蝦夷地海岸明細図	図類 1510	62
2 琴似屯田兵村 1-5	A（b）216-220	23
3 琴似屯田兵村の開墾状況 1-7	A（b）337-343	19

上記資料は複数の図や写真を含んでおり、単体の資料としてはクラーク肖像画（北大人物 B-85）が第 1 位で 12 回許可と例年申請の多い写真である。

松前蝦夷地海岸明細図

クラーク肖像画

放映許可申請は、北海道関係のニュース番組での放映申請が増加しているが、NHK の番組が一番多く、「歴史秘話ヒストリア」には毎年のように放映許可を出している。平成 25 年の放送には「クラーク博士」を題材にした回もあった。札幌放送局制作の「北のまほろば」、「ワインを地域ブランドに」などの番組にも放映許可を出した。

掲載申請では、歴史関係図書、教科書への掲載申請が許可件数の三分の一を占めた。北海道内に限らず市町村立の博物館、郷土資料館での企画展示に使用するための許可申請もコンスタントにあった。最近増加しているのは、学内出版物への掲載とフリーペーパーでの企画記事・連載記事への掲載許可である。

（2）企画展示

玄関ロビー展示を 3 回とメディアコートでの展示を 1 回行った。

1）「“台湾は天然の恩恵裕なる” —殖民地台湾を駆けた北大卒業生たち— 第Ⅲ期 学問と実業 —高等農林・帝大と民間企業において—」大学文書館と共催展示
本館玄関ロビー 4 月 6 日（土）～ 7 月 31 日（水）
平成 24 年度からの継続で 3 期に分けて展示を行っており、上記は最終期に当たる。

2）「北方古地図」展 第Ⅰ期「北海道図の変遷」8 月 1 日（木）～ 11 月 30 日（土） 第Ⅱ期「北方図の変遷」12 月 2 日（月）～ 3 月 31 日（月）
本館玄関ロビー
地図の面白さを知り、北海道の歴史を考える契機となることを目的として、普段利用者の目に触れることの少ない、北方古地図を展示した。

古地図展展示風景

3）「新渡戸稲造の青春」
本館メディアコート 8 月 1 日（木）～ 11 月 29 日（金）
平成 25 年度から活動を始めた北方資料ワーキンググループによる初の企画展示。新渡戸カレッジ応援イベント、ホームカミングデーに連なる企画で、新渡戸稲造を在校生以外の一般利用者にも身近に感じられるよう、札幌農学校在学時の勉学や学生生活に重点をおいた。

新渡戸稲造の青春展示風景

B 国際資料等企画展示

本図書館は、国連寄託図書館、EU 情報センターとしての役割も担っている（ともに道内唯一）。国連寄託図書館とは、国際連合が、その活動や精神を広く一般に知らせるために世界各国に設置し、資料を寄託している図書館であり、本学は日本で 3 番目の寄託図書館として、1962 年から資料を受け入れている。一方 EU 情報センター（EUi）は、欧州連合（EU）への理解を深めてもらうことを目的に、世界各国に設置されている情報センターであり、本学は日本で 8 番目の EDC（EU 資料センター：2006 年 10 月 31 日に EUi に名称変更）として指定を受け、1982 年から資料（英語版）を受け入れている。

（1）STAND UP TAKE ACTION in Hokudai

10 月 17 日（木）（＝貧困撲滅のための国際デー）に「STAND UP TAKE ACTION in Hokudai」を開催した。当イベントは、国連の広報活動の一環として、世界の貧困解決と国連の「ミレニアム開発目標」達成のために「立ち上がる」世界的なキャンペーン「STAND UP TAKE ACTION」に賛同して行ったものである。

図書館職員による国連の「ミレニアム開発目標」達成状況の紹介、二つの国際系学生団体による活動紹介の発表があり、最後に新田孝彦附属図書館長の「スタンド・アップ！」の掛け声のもと、63 名の参加者全員で立ち上がり、世界から貧困をなくしたいという意志をアピールした。

参加者の感想：

- 自分と同じ大学生が行動を起こしていることを知り、たいへん刺激を受けた。
- 自分も世界に向けて活動しよう！という気になった。

（2）日・EU フレンドシップウィーク企画展示「クロアチアと EU 拡大」

「日・EU フレンドシップウィーク」は、文化、学術、スポーツなどのさまざまな交流イベントを通して、日本と欧州連合（EU）の人と人との交流を深めることを目的とした、駐日欧州連合代表部が主催するプログラムである。EU 情報センターとしてプログラムに毎年参加し、展示や講演会といった企画を実施している。

2013 年にクロアチアが EU に新加盟したことを受けて、メインテーマにクロアチアを取り上げ、6 月 6 日（木）から 13 日（木）の 8 日間、企画展示「クロアチアと EU 拡大」を実施した。クロアチア政府観光局のほか、本学教員やクロアチア人留学生の協力のもと、クロアチアの魅力を紹

63 名が立ち上がった STAND UP TAKE ACTION

介するポスターパネル、および同国の世界遺産の写真パネルの展示を行った。グッズの当たるクイズの実施、パネル原稿の機関リポジトリ「HUSCAP」による公開（http://hdl.handle.net/2115/52766）のほか、学生協働企画である「Hello! EU」と「EU MUSIC WEEK」が加わったことで、様々なアプローチで EU に親しむ機会を提供することができた。

図書館ロビーでの展示

オープンエリアでの展示

（3）国連情報入門

電子化が進む国連文書に対するリテラシーを高めることを目的として、4 月 17 日（水）、22 日（月）、24 日（水）に講習会「国連情報入門」を開催した。図書館職員がインターネットを利用した国連文書の探し方や読み方等を解説したもので、学生、教職員、一般市民あわせて 51 名の参加があった。

参加者の感想：

・国連に興味はあっても、なかなかアクセスしにくいので、学べてよかった。
・今後の情報収集に役立てたい。

当日の資料については、機関リポジトリ「HUSCAP」で（http://hdl.handle.net/2115/52583）公開している。

国連情報入門ポスター

4 その他

A 自己点検・評価及び利用者アンケートの実施

本図書館は、平成 14 年度以来 11 年ぶりに自己点検・評価を実施し、『平成 25 年度北海道大学附属図書館自己点検･評価報告書（平成 15 年度～ 24 年度)』をまとめた。

前回の自己点検･評価から今日までの間、本図書館は、「国立大学の法人化（平成 16 年度)」「業務統合（平成 19 年度)」「図書館再生事業（平成 21 年度～ 24 年度)」という 3 つの重要な変化を経験した。報告書では、3 つのターニング･ポイントがもたらした影響を意識しつつ、本図書館の活動について「教育学習支援」「研究支援」「連携」「社会貢献と国際化」「組織運営」の 5 つの観点から点検・評価を行った。

評価の概要は、以下のとおりである。

①教育学習支援：教育学習支援機能は、法人化以後、変革が求められる大学にあって最も重視すべき図書館機能である。本図書館では、平成 21 ～ 24 年度の再生事業によって、学習支援機能の飛躍的な充実が図られたことから、学内関係部署や教員組織・学生との連携・協働が活性化し、高い成果を生み出しつつある。

②研究支援：多様な学術研究コンテンツの充実を図り、目録データを整備し、機関リポジトリによって本学の教育研究活動の成果を発信することは、図書館の重要な責務であり､着実な成果を挙げてきている。しかし､今後も大学の研究基盤の中核役割を果たしていくためには、特に学術研究コンテンツの整備について、経費面における適正かつ持続可能な枠組みの構築が必要である。

③連携：図書館の機能が高度化するに従って、事業運営における学内外との連携は必須のものとなっており、情報関連施設だけでなく、学務・教務・学生支援・研究支援・国際貢献など、広範な分野での連携が進展している。

④社会貢献と国際化：本図書館は、従来、地域・社会貢献に一定の役割を果たしてきたが、さらにこの拡充を目指す必要がある。また高等教育のグローバル化が進展する現在、図書館もあらゆる面で国際化対応を迫られている。

⑤組織運営：平成 19 年度に業務統合を実施して以降、その積み残し課題の対応に追われてきた面もあるが、今後は統合された組織のメリットを活かして、新規ニーズに対応できる体制を再整備する段階に入ったと考えられる。

そして、今回の自己点検･評価の成果を踏まえて、ミッションの再定義を行った。新しいミッション（表紙裏参照）は、平成 14 年度の自己点検・評価報告書に示された「声明」の考えを受け継ぎながら、「教育学習支援」機能の充実、「国際化」への対応等に重点をおき、社会環境の変化に対応したものとなっている。また、専門職としての「図書館職員」自身の在り方に言及したことも新しい点である。

また、今回の自己点検・評価の材料とするため、大規模な利用者アンケート調査を平成25年10月に実施した。調査票は、学内構成員（教員・大学院生・学部学生）用と一般市民用を準備した。特に学内構成員用の調査票は、図書館サービス評価の標準的な手法のひとつを用い、平成 18 年 12 月実施の調査と比較できるよう工夫した。

自己点検・報告書一式は、別冊『附属図書館利用者アンケート調査報告書（平成 26 年 3 月)』とともに機関リポジトリ「HUSCAP」で公開している（URL：http://hdl.handle.net/2115/55261)。

B 研究開発室設置

11 月館長裁定により「北海道大学附属図書館研究開発室要項」を制定し、副館長を室長とする研究開発室を新設した。研究開発室の設置は、第 1 期中期目標に掲げていた長年の懸案事項であった。

上記要項では、研究開発室の目的を「実践に根ざした調査研究を行うことにより図書館サービスの向上を図るとともに、専門的知識を有する教員等と協働することにより図書館職員の育成を図ること」と定め、また、業務内容として「研究開発室は、附属図書館の理念に基づき、策定された中期目標の達成に資する調査研究を行う」と定めている。

研究開発室設置以前から本学の教員には本図書館の事業運営に関して様々な専門的知識を提供していただいており、従来から行われてきた教員との協働を基盤とした体制となっている。

平成 26 年 1 月に文学部、理学部、国際本部の教員計 3 名に室員の発令を行なった。

C 広報の見直し

従来、本図書館が刊行してきた広報誌としては、「北海道大学附属図書館概要」「北海道大学附属図書館報楡蔭」「楡蔭レター：北海道大学附属図書館報（速報版）」があげられる。

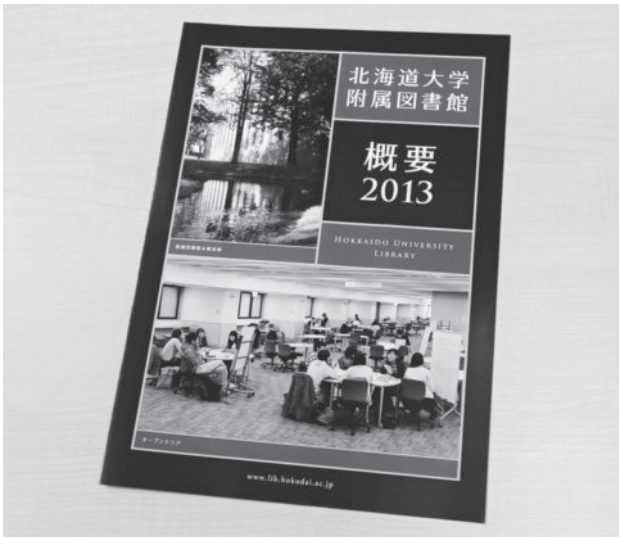
いつ、誰に、何を広報する必要があるのか、またその目的を効果的に達成する手段としてどのようなものが考えられるのか、広報ワーキング（平成 25 年 4 月以降は広報委員会）で分析・検討を行った。その結果、以下のような見直しとなった。

まず、平成 24 年度には、図書館のイベントやお知らせを利用者にタイムリーに伝えるため、「楡蔭レター」を廃刊し、Facebook を開設した（平成 24 年 10 月 1 日）。これは、インターネットの普及した現在では、月 1 回の印刷物の発行では速報とは言い難く、速報としての役目を終えたと考えたからである。Facebook は図書館の広報として重要な役割を担っている。

「楡蔭」は昭和 42 年から発行しているが、広報としてよりも、記録誌としての性格が強くなっていた。検討の結果、読者層を学生・大学院生に特化した広報誌とすることとした。4 月に「学生が思わず手に取りたくなる広報誌」というコンセプトでリニューアル 1 号（通算第 144 号）を発行した。学生を表紙のモデルに起用し、図書館学生サポーターが記事執筆、編集に携わるなど、学生との協働により紙面が作られている。

新しくなった楡蔭

「概要」は、記録誌としての価値が高かったが、情報量が多く、図書館の概要を一覧できるものではなかった。そこで、写真を多用した A4 版 4 ページに体裁をリニューアルし、前年度の附属図書館の活動をコンパクトにまとめた「概要」を発行することとした。



新しくなった概要

さらに、これまでの「楡蔭」と「概要」に代わる、附属図書館の 1 年間の詳細な活動報告と統計情報の記録誌として、「北海道大学附属図書館年報」を発行することとした。「年報」は本号が創刊号である。

平成 26 年度重点項目

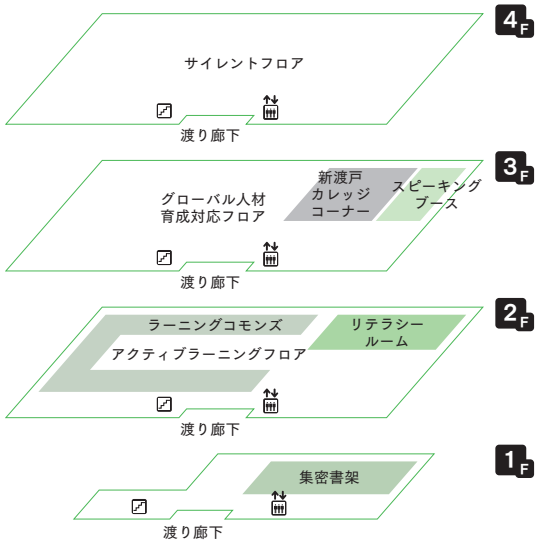
1 北図書館新営棟について

（1）北図書館新営棟について

北図書館新営棟は現在、北図書館の西側、福利厚生施設（北部食堂）との間に建設中で、平成 27 年 4 月にオープンする予定である。建物は地上 4 階建て、床面積は 1,554.64m^2 で、既存棟の 2 階から渡り廊下で接続する。

（2）フロア構成・平面図

1 階：書庫（集密書架：約 3 万 4 千冊収容）
2 階：アクティブラーニングフロア（仮称）
　リテラシールーム
3 階：グローバル人材育成対応フロア（仮称）
　新渡戸カレッジコーナー
　スピーキング・ブース
4 階：サイレントフロア（仮称）
　個人ブース



なお、2 ～ 4 階の座席数は約 350 席を設置する予定である。

（3）2 階：アクティブラーニングフロア（仮称）

新営棟 2 階はアクティブラーニングフロアとして、主体的な学習を促すため、会話や議論ができるように可動机やホワイトボードを提供する。また、グループでの学習に最適なボックス席や各種講習会やセミナーの会場として使用できるリテラシールームを設置する。

（4）3 階：グローバル人材育成対応フロア（仮称）

新営棟 3 階は外国人留学生と日本人学生が気軽に交流できる場所になることを目指している。そこでの「出会い」や「対話」によりコミュニケーション能力や国際通用性の向上を期待する。また、新渡戸カレッジ生や海外留学を目指す学生のための新渡戸カレッジコーナーを設け、海外協定校の情報や各種留学に関する資料および TOEFL 関連資料などの語学に関する資料も集中的に配置する。

（5）4 階：サイレントフロア（仮称）

新営棟 4 階は一人で静かに学習できるフロアとする。通常の閲覧机より幅の広い机を設置する。また、パーティションで囲われた個人ブース 24 席を設置する予定である。

2 学習支援企画担当及び情報リテラシー教育支援ワーキンググループの設置

平成 26 年度から初年次生の学習の場やアカデミック・サポートセンター等学習支援組織に隣接する北図書館に学習支援企画担当を設置することとした。これに伴い、平成 26 年 3 月に従来の「情報リテラシー教育支援連絡会」を見直し、学習支援企画担当係長を主査とする、業務内容の強化を狙った「情報リテラシー教育支援ワーキンググループ」を組織した。この組織改革により
①全学における情報リテラシー教育の強化
②文献の探し方ガイドの充実
③新営する北図書館アクティブラーニングフロア等を活用した新たな学習支援の企画
④学内の学習支援を目的とした他組織との連携強化
⑤新規ニーズへの迅速な対応
といった従来業務の強化や新たな需要へのスピード感ある対応を狙い、より一層の学習支援を図ることとしている。

連携事業 平成 25 年度

No.	時期	内容	連携・提携先		備考
1	4/6 ～ 7/31	企画展示「台湾は天然の恩恵裕なる～」	文書館	学内	北大時報 709 号掲載
2	4/17、4/22、4/24	国連情報入門	国連広報センター（資料提供）	学外	北大時報 711 号掲載
3	6 月、11 月	スキルアップセミナー	アカデミック・サポートセンター	学内	
4	6/6 ～ 6/13	2013 年　日・EU フレンドシップウィーク企画展示「クロアチアと EU 拡大」	クロアチア政府観光局、駐日欧州連合代表部、図書館サポーター	学内 学外	北大時報 712 号掲載
5	6/11	若手研究者のための author workshop	創成研究機構 URA ステーション、エルゼビア・ジャパン株式会社	学内 学外	北大時報 712 号掲載
6	6/24 ～ 6/28	1 年生サポート企画「少年よ、学部を選べ!」	学務部ピア・サポート室	学内	北大時報 712 号掲載
7	6/28	ビブリオバトルって何?初心者大歓迎大会	図書館サークル	学内	facebook 6/19
8	7/2 ～ 7/16	企画展示「girls and boys, be global!!」	経済学研究科　髙井哲彦准教授、国際本部　国際支援課	学内	http://www.lib.hokudai.ac.jp/support/nitobe/studentinterview/
9	7/23 ～ 2/28	英語多読マラソン	メディア・コミュニケーション研究院　髙見敏子准教授、浜井祐三子准教授、原田真見准教授	学内	http://www.lib.hokudai.ac.jp/support/nitobe/tadoku_marathon/
10	7/26	「研究支援力を高める」セミナー	創成研究機構 URA ステーション	学内	http://www.lib.hokudai.ac.jp/2013/07/19/15633/
11	8/5	テーブルでビブリオ～みんなでやってみよう!の巻～	図書館サークル	学内	facebook 8/1
12	8/2	世界冬の都市フェスタ 2013	札幌市（主催）	学外	ポスター出展、広報資料の配布
13	9/11 ～ 10/16	北海道大学サステナビリティ学生研究ポスターコンテスト昨年度受賞作品展	北海道大学サステナビリティ•ウィーク事務局(国際本部内)（共催）	学内	https://www.lib.hokudai.ac.jp/2013/09/05/17060/
14	9/26 ～ 10/17	めくってわかる!世界のいま：「ミレニアム開発目標」ポスター展	国連広報センター（ポスター画像提供）	学外	facebook 9/26
15	9/20	ワークショップ「ビブリオメトリクスと研究評価」	創成研究機構、札幌医科大学附属総合情報センター	学内 学外	北大時報 715 号掲載
16	9/29	ビブリオバトル首都決戦北大予選会	図書館サークル	学内	北大時報 715 号掲載
17	10/17	STAND UP TAKE ACTION in Hokudai	JCK 北海道事務局、TICAD V 学生プロジェクト　北海道事務局（共催）、独立行政法人国際協力機構北海道国際センター（JICA　北海道）、北海道、公益財団法人札幌国際プラザ、日本国際連合協会北海道本部、札幌市（後援）	学内 学外	北大時報 717 号掲載
18	10/22	英語論文執筆セミナー	BioMed Central	学外	http://www.lib.hokudai.ac.jp/2013/09/25/17730/
19	10/30	講演会「世界で働く」	国際本部、新渡戸カレッジオフィス、学務部キャリアセンター	学内	http://www.lib.hokudai.ac.jp/support/nitobe/careerseminar/
20	11 月	図書館利用ポスターの作成	留学生サポートデスク	学内	facebook 11/13
21	11/27	講演会「世界で学ぶ」	University of Massachusetts Amherst（Library）、国際本部、新渡戸カレッジオフィス、学務部キャリアセンター	学内 学外	北大時報 717 号掲載
22	12/9	セミナー「加速するオープンエデュケーション」	教育改革室、情報基盤センター	学内	北大時報 718 号掲載
23	1/10 ～ 3/2	パネル展示「UNHCR を知っていますか」	国際本部（共催）、新渡戸カレッジ（後援）、国連 UNHCR 協会（資料提供）	学内 学外	http://www.lib.hokudai.ac.jp/2014/01/10/20282/
24	1/20	国連広報センター所長　根本かおる氏講演	国際本部（主催）、日本国際連合協会北海道支部、新渡戸カレッジ（後援）	学内 学外	共催として参画 http://www.lib.hokudai.ac.jp/2014/01/17/20510/
25	2/27	国際協力カフェ	国連 UNHCR 協会、公益社団法人　青年海外協力協会	学外	北大時報 720 号掲載

活動日誌 平成 25 年度

4月	4/ 6～ 7/31	企画展示「“ 台湾は天然の恩恵裕なる ”―植民地台湾を駆けた北大卒業生たち（第Ⅲ期）」（本館）
	4/ 9～ 4/11	平成 25 年度北海道地区国立大学法人等初任者研修（管理課、利用支援課）
	4/ 9～ 4/12	図書館利用ガイダンス（本館） 全 8 回
	4/ 9～ 4/18	図書館利用ガイダンス（北図書館） 全 24 回
	4/ 9～ 5/ 7	企画展示「新渡戸稲造と読書」（北図書館）
	4/11	平成 25 年度第 1 回広報委員会
	4/12	Facebook 1000 いいね！
	4/12	旭川西高校見学
	4/17	平成 25 年度第 2 回広報委員会
	4/17、4/22、4/24	「国連情報入門」開催（利用支援課）
	4/19	第 45 回国立大学図書館協会北海道地区総会（館長、部長、管理課長）（旭川医科大学）
	4/24	平成 25 年度第 1 回図書選定小委員会
	4/26	平成 25 年度第 3 回広報委員会
	4/26	図書館情報システム第 1 回定例会議
	4/26	第 13 回修学支援懇話会
5月	5/ 8～ 5/30	「本は脳を育てる」特別展示（北図書館）
	5/10	第 56 回北海道地区大学図書館職員研究集会企画委員会（第 2 回）（利用支援課課長補佐）
	5/13	平成 25 年度国立大学図書館協会新理事会（館長、部長、管理課長）（東京大学）
	5/14	平成 25 年度第 4 回広報委員会
	5/14	米国国務省情報調査局地理学専門官見学
	5/15	新渡戸カレッジフェロー見学
	5/18	札幌市立共栄小学校 PTA 父親の会見学
	5/23～ 5/24	日本医学図書館協会第 84 回総会（利用支援課）（東京）
	5/23	札幌市立清田高校見学
	5/28	北海道地区大学図書館協議会第 3 回幹事館会議（利用支援課長、利用支援課課長補佐）
	5/29	附属図書館新任職員 SD 研修
	5/30	安全教育講習会
	5/30	国文学研究資料館古典籍データベース研究事業センター拠点連携委員会（利用支援課）（国文学研究資料館）
	5/31	第 14 回修学支援懇話会
6月	6 月～ 8 月	平成 25 年度国立大学法人北海道大学初任職員英語研修（管理課、利用支援課）
	6 月～ 9 月	平成 25 年度国立大学法人北海道大学事務職員英語研修（中級）（利用支援課）
	6/ 3	北海道札幌南稜高校見学
	6/ 4	平成 25 年度第 5 回広報委員会
	6/ 4	安全教育講習会
	6/ 5	北海道ハイテクノロジー専門学校見学
	6/ 7～ 6/ 8	オープンアクセス・サミット 2013（学術システム課長）（NII）
	6/ 6～ 6/13	日・EU フレンドシップウィーク 企画展示「クロアチアと EU 拡大」
	6/ 6～ 6/28	図書展示「Hello! EU」
	6/ 7	安全教育講習会
	6/10	平成 25 年度第 1 回学術研究コンテンツ小委員会
	6/11	若手研究者のための Author Workshop
	6/11～ 6/13	平成 25 年度北海道地区国立大学法人等中堅職員研修（利用支援課、学術システム課）
	6/14	EUSI（EU Studies Institute in Tokyo）事務局長「日・EU フレンドシップウィーク」見学
	6/17～ 6/21	EU MUSIC WEEK
	6/18	平成 25 年度第 6 回広報委員会
	6/19～ 6/21	目録システム地域講習会（図書コース）（学術システム課）
	6/20	第 60 回国立大学図書館協会総会（館長、副館長、部長、管理課長、利用支援課長）（名古屋）
	6/20	和歌山開智高校見学
	6/20～ 6/21	平成 25 年度北海道地区国立大学法人事務情報化講習会（ACCESS 初級編）（管理課、利用支援課）
	6/21	第 9 回国立大学図書館協会マネジメント・セミナー（館長、副館長、部長、管理課長、利用支援課長）（名古屋）
	6/21	文科省研究振興局学術機関課見学
	6/24	ソウル大学校教育研修院職業教育課程日本研修団見学
	6/24～ 6/28	「少年よ、学部を選べ！」開催（北図書館）
	6/25	平成 25 年度第 1 回図書選定小委員会（職員委員）定例会
	6/28	平成 25 年度第 1 回学術成果発信小委員会
	6/28	第 15 回修学支援懇話会
	6/28	第 55 回北海道図書館大会運営委員会（第 3 回）（利用支援課長）（道立図書館）

	6/28	ビブリオバトル「ビブリオバトルって何？初心者歓迎大会」
7月	7/ 1	厚真町立厚南中学校見学
	7/ 1～ 7/12	平成 25 年度大学図書館職員長期研修（利用支援課、学術システム課）（筑波大学）
	7/ 1～ 1/24	企画展示「少年よ、学部を選べ！ 2013」ポスター展（北図書館）
	7/ 2～ 7/16	企画展示「Girls and Boys, Be Global!!」（北図書館）
	7/ 3	韓国忠清南道教育庁長見学
	7/12	第 9 回学術情報ソリューションセミナー 2013 in 札幌（管理課、利用支援課、学術システム課）（札幌医科大学）
	7/16	第 226 回図書館委員会（平成 25 年度第 1 回）
	7/18	第 56 回北海道地区大学図書館職員研究集会企画委員会（第 4 回）（利用支援課課長補佐）
	7/23	平成 25 年度第 1 回図書担当係長連絡会議
	7/23～ 2/28	めざせ 100 万語！英語多読マラソン（北図書館）
	7/24	図書館情報システム第 2 回定例会議
	7/24	第 160 回北図書館委員会（平成 25 年度第 1 回）
	7/26	「研究支援力を高める」セミナー
	7/26	第 16 回修学支援懇話会
	7/26	平成 25 年度第 2 回図書選定小委員会
	7/26	2013 年データベース・セミナー（利用支援課）（大阪）
	7/29～ 7/30	平成 25 年度第 1 回情報処理技術セミナー（学術システム課）（NII）
8月	8/ 1～11/29	企画展示「新渡戸稲造の青春」（本館）
	8/ 1～11/30	企画展示「北方古地図展」（第 1 期）（本館）
	8/ 2	「世界冬の都市フェスタ 2013」出展
	8/ 4	平成 25 年度オープンキャンパス自由参加プログラム（本館）
	8/ 5～10/31	国立女性教育会館パッケージ貸出サービス（第 10 期）開始（北図書館）
	8/ 5	ビブリオバトル「テーブルでビブリオ～みんなでやってみよう！の巻～」（北図書館）
	8/17	国際本部 PARE プログラム　サマースクール見学
	8/23	国立大学図書館協会人材委員会（部長）（東京大学）
	8/23	第 56 回北海道地区大学図書館職員研究集会（管理課、利用支援課、学術システム課）（札幌大谷大学）
	8/26	釜山大学校見学
	8/26～ 9/ 3	北海道大学インターンシップ
	8/26	公文書館機能普及セミナー 2013 in 北海道（利用支援課）（北海道庁赤れんが庁舎）
	8/28	札幌市立高等学校職場体験学習（北図書館）（開成高校）
	8/30	第 63 回北海道地区大学図書館協議会総会（館長、事務部長、利用支援課長、利用支援課補佐）
	8/30	国際協力機構図書館見学
9月	9 月～ 11 月	平成 25 年度国立大学法人北海道大学事務職員英語研修（上級）（利用支援課）
	9/ 2～ 9/ 3	平成 25 年度国立大学法人北海道大学事務職員英語研修（グローバル化対応）
	9/ 2～ 9/ 6	企画展示「北図書館に眠っている実はすごい本①」（北図書館）
	9/ 2	農学研究院 FD セミナー『英語論文執筆＆投稿スキルアップセミナー』
	9/ 2	国文学研究資料館古典籍データベース研究事業センター第 1 回書誌ワーキンググループ（利用支援課）（学士会館）
	9/ 3	中国北京師範大学珠海分校見学
	9/ 4	第 17 回修学支援懇話会
	9/ 5～ 9/ 6	第 55 回北海道図書館大会（利用支援課長、管理課、利用支援課、学術システム課）（北海学園大学）
	9/ 9～ 9/13	企画展示「北図書館に眠っている実はすごい本②」（北図書館）
	9/11	平成 25 年度第 7 回広報委員会
	9/11	国立大学図書館協会教育学習支援検討特別委員会（利用支援課長）（お茶の水女子大学）
	9/11～ 9/13	平成 25 年度図書館等職員著作権実務講習会（利用支援課）（京都大学）
	9/11～10/16	北海道大学サステナビリティ学生研究ポスターコンテスト昨年度受賞作品展（本館）
	9/14	RDA 講習会（学術システム課）（札幌）
	9/14	苫小牧東高校見学
	9/16	子供みんなできる日本をめざす会実行委員会見学
	9/18	札幌市立高等学校職場体験学習（北図書館）（平岸高校）
	9/19	高大連携授業聴講型公開講座受講高校生北図書館見学（札幌北高校）
	9/19～ 9/20	附属図書館新渡戸カレッジ応援プロジェクト国内大学視察（管理課、学術システム課）（東京）
	9/20	ワークショップ「ビブリオメトリクスと研究評価」
	9/24～ 9/27	企画展示「北図書館に眠っている実はすごい本③」（北図書館）
	9/25～ 9/27	平成 25 年度学術情報ウェブサービス担当者研修（利用支援課）（NII）
	9/25	平成 25 年度第 1 回学術成果刊行助成審査委員会
	9/25	高大連携授業聴講型公開講座受講高校生北図書館見学（藤女子高校、札幌旭丘高校、札幌開成高校、札幌南高校）

	9/26 ～ 9/27	平成 25 年度北海道地区国立大学法人事務情報化講習会（ACCESS 初級編）（管理課、利用支援課）
	9/26 ～ 9/27	北海道地区大学図書館職員フレッシュ・パーソン・セミナー（管理課、利用支援課）
	9/26 ～ 10/17	展示「めくってわかる！世界のいま」;「ミレニアム開発目標」ポスター展（本館）
	9/28	北海道大学ホームカミングデー 2013―Be ambitious again!―
	9/29	ビブリオバトル首都決戦　北大予選会
	9/30	国際本部 PARE プログラム　発展科目見学
10月	10/ 1 ～ 2/28	平日早朝開館試行実施（朝 8 時開館）
	10/ 2	平成 25 年度第 1 回点検評価小委員会
	10/ 4	JMLA 地区研修会（利用支援課）（札幌医科大学）
	10/ 4	第 56 回北海道地区大学図書館職員研究集会企画委員会（第 5 回）（利用支援課課長補佐）
	10/ 7 ～ 10/13	附属図書館新渡戸カレッジ応援プロジェクト海外大学視察（学術システム課）（アメリカ）
	10/ 9	平成 25 年度第 2 回図書選定小委員会（職員委員）定例会
	10/10	平成 25 年度全道図書館研究集会（道立図書館）
	10/10 ～ 10/11	国内の大学図書館における学習支援状況調査（利用支援課）（大阪）
	10/10 ～ 10/11	第 34 回（2013 年度）EUi セミナー（利用支援課）（上智大学）
	10/11	第 18 回修学支援懇話会
	10/11	東京学芸大学見学
	10/16 ～ 10/18	平成 25 年度学術情報リテラシー教育担当者研修会（大阪大学）
	10/17	STAND UP TAKE ACTION in Hokudai
	10/18 ～ 10/31	資料展示「世界で働きたいあなたへ」（本館）
	10/21 ～ 11/ 4	企画展示「学術成果のオープンアクセスと HUSCAP―世界へ伝える・未来へつなぐ」（本館）
	10/22 ～ 11/ 7	「本は脳を育てる」特別展示（北図書館）
	10/22	Open Access Week 企画「英語論文執筆セミナー」
	10/22	第 1 回選書ツアー
	10/23 ～ 10/24	平成 25 年度北海道地区大学 SD 研修「大学職員セミナー」（管理課）
	10/24	国立大学図書館協会秋季理事会（館長、部長、管理課長、利用支援課長、学術システム課長）
	10/24	国文学研究資料館館長見学
	10/24 ～ 10/25	平成 25 年度北海道地区国立大学法人事務情報化講習会（ACCESS 初級編）（管理課）
	10/24 ～ 10/25	平成 25 年度目録システム講習会（管理課）（NII）
	10/25	中国国家図書館代表団見学
	10/25	国立大学図書館協会理事会見学
	10/25	第 2 回選書ツアー
	10/28 ～ 11/ 1	平成 25 年度事務職員プレゼンテーションスキル講習会（利用支援課）
	10/29 ～ 10/31	第 15 回図書館総合展 / 学術情報オープンサミット 2013（管理課、利用支援課、学術システム課）（横浜）
	10/29	第 10 回 DRF 全国ワークショップ（図書館総合展）（学術システム課）
	10/30	「世界で働く」講演会
	10/30 ～ 11/10	「企画展示」サステナビリティって、なに？（北図書館）
	10/31	平成 25 年度障がい学生支援セミナー（利用支援課）（札幌医科大学）
11月	11/ 2 ～ 11/10	フィンランドの大学図書館における学習支援の調査（利用支援課）（フィンランド）
	11/ 5 ～ 11/ 8	平成 25 年度大学図書館職員短期研修（利用支援課、学術システム課）（東京大学）
	11/ 6	北海道地区大学図書館協議会第 1 回幹事館会議（利用支援課長、利用支援課課長補佐）
	11/ 6	札幌大学見学
	11/ 8	平成 25 年度国立大学図書館協会北海道地区協会事務部課室長会議（部長、管理課長、利用支援課長、学術システム課長）
	11/ 8 ～ 11/ 9	北海道大学教育ワークショップ（利用支援課）
	11/12	消防訓練（本館）
	11/12	「図書館年鑑」北海道ブロック第 1 回協力者会議（利用支援課長）
	11/15	平成 25 年度第 2 回図書担当係長連絡会議
	11/18 ～ 2/21	英語学習アドバイザー活動開始（北図書館）
	11/19	消防訓練（北図書館）
	11/19 ～ 11/20	Berlin 11（学術システム課）（ドイツ）
	11/20	図書館情報システム第 3 回定例会議
	11/21	第 3 回選書ツアー
	11/21 ～ 11/22	平成 25 年度教務事務実務研修（利用支援課）
	11/22	平成 25 年度北海道地区国立大学法人事務情報化講習会（ACCESS クエリ編）（管理課）
	11/27	「世界で学ぶ」講演会
	11/28	UMass Amherst 見学
	11/29	第 19 回修学支援懇話会

12月	12/ 2～ 3/31	企画展示「北方古地図展」（第 2 期）（本館）
	12/ 5	平成 25 年度第 8 回広報委員会
	12/ 6	平成 25 年度第 3 回図書選定小委員会
	12/ 9	「加速化するオープンエデュケーション」セミナー（附属図書館講演会）
	12/ 9～12/10	平成 25 年度北海道地区国立大学法人等学生支援担当職員 SD 研修（利用支援課）
	12/12	AED 講習会
	12/12～12/13	国連寄託図書館会議（利用支援課）（国連大学本部）
	12/13	機関リポジトリ推進委員会（学術システム課）（NII）
	12/13	AED 講習会
	12/13	第 56 回北海道図書館大会運営委員会（第 1 回）（利用支援課長）（道立図書館）
	12/16	平成 25 年度第 3 回図書選定小委員会（職員委員）定例会
	12/18～12/20	平成 25 年度北海道地区国立大学法人事務情報化講習会（ACCESS クエリ応用編）（管理課、利用支援課）
	12/19	平成 25 年度第 1 回国内研修出張報告会
	12/20	University Malaysia Kelantan 見学
	12/24	国文学研究資料館古典籍データベース研究事業センター第 2 回書誌ワーキンググループ（利用支援課）（東京）
	12/25	平成 25 年度第 2 回学術成果刊行助成審査委員会
	12/25	第 20 回修学支援懇話会
	12/27	消防訓練（本館）
1月	1/10～ 3/ 2	パネル展示「UNHCR を知っていますか？」
	1/16	「図書館年鑑」北海道ブロック第 2 回協力者会議（利用支援課長）
	1/17	第 57 回北海道地区大学図書館職員研究集会企画委員会（第 1 回）（利用支援課課長補佐）
	1/20	国連広報センター所長見学
	1/24	海外出張報告会
	1/27	平成 25 年度第 4 回図書選定小委員会（職員委員）定例会
	1/31	第 56 回北海道図書館大会運営委員会（第 2 回）（利用支援課長）（道立図書館）
2月	2/12	平成 25 年度第 9 回広報委員会
	2/14	図書館情報システム第 4 回定例会議
	2/14	平成 25 年度 NPO 日本医学図書館協会北海道地区総会（利用支援課長）（札幌医科大学）
	2/17	平成 25 年度第 2 回学術成果発信小委員会
	2/19	平成 25 年度第 2 回点検評価小委員会
	2/19～ 2/20	平成 25 年度附属図書館での仕事体験
	2/21	国立大学図書館協会北海道地区協会「情報発信力スキルアップワークショップ」
	2/26	平成 25 年度第 5 回図書選定小委員会（職員委員）定例会
	2/27	北海道大学リサーチアドミニストレーター教育プログラム FY2013（利用支援課）
	2/27	国際協力カフェ@北大図書館
3月	3/ 5	平成 25 年度第 2 回学術研究コンテンツ小委員会
	3/ 6	北海道大学リサーチアドミニストレーター教育プログラム FY2013（利用支援課）
	3/10	第 57 回北海道地区大学図書館職員研究集会企画委員会（第 2 回）（利用支援課課長補佐）（北海道大学附属図書館）
	3/10	第 161 回北図書館委員会（平成 25 年度第 2 回）
	3/11	平成 25 年度第 4 回図書選定小委員会
	3/13	平成 25 年度第 3 回点検評価小委員会
	3/13	平成 25 年度第 2 回国内研修出張報告会
	3/13	北海道大学リサーチアドミニストレーター教育プログラム FY2013（利用支援課）
	3/14	第 87 次国立七大学附属図書館協議会・第 12 回国立七大学附属図書館長会議・第 46 回国立七大学附属図書館事務部課長会議（部長、管理課長）（大阪大学）
	3/17	第 227 回図書館委員会（平成 25 年度第 2 回）
	3/18	平成 25 年度第 10 回広報委員会
	3/18	信州大学見学
	3/19	北海道地区大学図書館協議会第 2 回幹事館会議（利用支援課長、利用支援課課長補佐）
	3/20	第 21 回修学支援懇話会
	3/24	平成 25 年度第 6 回図書選定小委員会（職員委員）定例会
	3/26	北海道地区大学図書館相互促進事業会議（利用支援課補佐）
	3/27	平成 25 年度第 3 回図書担当係長連絡会議
	3/28～ 5/31	企画展示「“ エルムの森 ” の青春―北大生の群像 1876～1949」（第 1 期）（北図書館）

職員研修

No	研修名	開催期間	開催場所	参加者所属	参加者氏名
1	平成 25 年度北海道地区国立大学法人等初任者研修	H25. 4. 9 ～ H25. 4.11	学術交流会館	管理課、利用支援課	井上雅史、近藤絵理子、山崎佳子、守内美月、栗田とも子、芝翔太郎
2	日本医学図書館協会第 84 回通常総会及び分科会	H25. 5.23 ～ H25. 5.24	日本科学未来館	利用支援課付（医）、利用支援課付（歯）	川村路代、笠井美由紀
3	平成 25 年度国立大学法人北海道大学初任職員英語研修	H25. 6 ～ H25. 8	EC 英会話札幌アスティ校	管理課、利用支援課	井上雅史、近藤絵理子、山崎佳子、守内美月、栗田とも子、芝翔太郎
4	平成 25 年国立大学法人北海道大学事務職員英語研修（中級）	H25. 6 ～ H25. 9	EC 英会話札幌アスティ校	利用支援課、利用支援課付（工）	千葉浩之、菊地隆憲
5	平成 25 年度北海道地区国立大学法人等中堅職員研修	H25. 6.11 ～ H25. 6.13	百年記念会館	利用支援課、利用支援課付（農）、学術システム課	紙谷五月、加藤大博、三隅健一
6	平成 25 年度目録システム講習会（図書コース）	H25. 6.19 ～ H25. 6.21	附属図書館	学術システム課	清谷あさみ、纐纈直也、古谷久美子
7	平成 25 年度北海道地区国立大学法人事務情報化講習会（ACCESS 初級編）	H25. 6.20 ～ H25. 6.21	情報基盤センター南館	管理課､利用支援課付(医)	神谷実、佐藤亜紀、福井みゆき
8	平成 25 年度大学図書館職員長期研修	H25. 7. 1 ～ H25. 7.12	筑波大学	利用支援課付（歯）、学術システム課	坂本ゆう子、茶屋容子
9	第 9 回学術情報ソリューションセミナー 2013 in 札幌	H25. 7.12	札幌医科大学	管理課、利用支援課、利用支援課付（理）、利用支援課付（医）、学術システム課	江川和子、佐藤亜紀、山崎佳子、得能由貴、千葉浩之、城恭子、梶原茂寿、川村路代、三隅健一、佐々木翼、纐纈直也
10	2013 年データベース・セミナー	H25. 7.26	ラマダホテル大阪	利用支援課	横井有紀
11	平成 25 年度第 1 回情報処理技術セミナー	H25. 7.29 ～ H25. 7.30	国立情報学研究所	学術システム課	佐々木翼
12	第 56 回北海道地区大学図書館職員研究集会	H25. 8.23	札幌大谷大学	管理課、利用支援課、利用支援課付（歯）、利用支援課付（医）、利用支援課付（工）、学術システム課	佐藤亜紀、近藤絵里子、平館真希子、河野由香里、井上雅史、金田篤、伊藤仁浩、得能由貴、芝翔太郎、栗田とも子、井手上恵子、笠井美由紀、浮田千恵、菊地隆憲、横井有紀、得田琴、纐纈直也
13	平成 25 年度国立大学法人北海道大学事務職員英語研修（上級）	H25. 9 ～ H25.11	EC 英会話札幌アスティ校	利用支援課	城恭子
14	平成 25 年度国立大学法人北海道大学事務職員英語研修（グローバル化対応）	H25. 9. 2 ～ H25. 9. 3	事務局特別会議室	利用支援課	紙谷五月
15	平成 25 年度図書館等職員著作権実務講習会	H25. 9.11 ～ H25. 9.13	京都大学	利用支援課	栗田とも子
16	平成 25 年度学術情報ウェブサービス担当者研修	H25. 9.25 ～ H25. 9.27	国立情報学研究所	利用支援課付（理）	梶原茂寿
17	平成 25 年度北海道地区国立大学法人事務情報化講習会（ACCESS 初級編）	H25. 9.26 ～ H25. 9.27	情報基盤センター南館	管理課、利用支援課	近藤絵理子、山崎佳子
18	北海道地区大学図書館職員　フレッシュ・パーソン・セミナー	H25. 9.26 ～ H25. 9.27	附属図書館	管理課、利用支援課	守内美月、河野由香里、平館真希子、井上雅史、得能由貴、芝翔太郎、栗田とも子
19	平成 25 年度日本医学図書館協会北海道地区会加盟館研修会・平成 25 年度市町村図書館職員レファレンス体験研修	H25.10. 4	札幌医科大学	利用支援課付（薬）、利用支援課付（歯）、利用支援課付（医）、利用支援課付（医•保）	松尾博明、坂本ゆう子、福井みゆき、川村路代、石森久美
20	2013 年度 EUi セミナー	H25.10.10 ～ H25.10.11	上智大学	利用支援課	城恭子
21	平成 25 年度学術情報リテラシー教育担当者研修	H25.10.16 ～ H25.10.18	大阪大学	利用支援課付（工）	菊地隆憲
22	平成 25 年度北海道地区大学 SD 研修「大学職員セミナー」	H25.10.23 ～ H25.10.24	百年記念会館	管理課	長嶋岳生
23	平成 25 年度北海道地区国立大学法人事務情報化講習会（ACCESS 初級編）	H25.10.24 ～ H25.10.25	附属図書館	管理課	守内美月
24	平成 25 年度目録システム講習会	H25.10.24 ～ H25.10.25	国立情報学研究所	管理課	近藤絵理子
25	第 15 回図書館総合展／学術情報オープンサミット 2013	H25.10.29 ～ H25.10.31	パシフィコ横浜	管理課、利用支援課、学術システム課	佐藤亜紀、村木麻衣子、三隅健一
26	平成 25 年度事務職員プレゼンテーションスキル講習会	H25.10.28 ～ H25.11. 1	附属図書館	利用支援課	芝翔太郎
27	平成 25 年度大学図書館職員短期研修	H25.11. 5 ～ H25.11. 8	東京大学附属図書館	学術システム課、利用支援課付（農）	三隅健一、加藤大博
28	平成 25 年度教務事務実務研修	H25.11.21 ～ H2511.22	高等教育推進機構大会議室	利用支援課	紙谷五月
29	平成 25 年度北海道地区国立大学法人事務情報化講習会（ACCESS クエリ編）	H25.11.22	情報基盤センター南館	管理課	平田栄夫、井上雅史
30	平成 25 年度北海道地区国立大学法人等学生支援担当職員 SD 研修	H25.12. 9 ～ H25.12.10	高等教育推進機構大会議室	利用支援課	紙谷五月
31	平成 25 年度北海道地区国立大学法人事務情報化講習会（ACCESS クエリ応用編）	H25.12.18 ～ H25.12.20	情報基盤センター南館	管理課、利用支援課付（工）、学術システム課	嶺野智康、菊地隆憲、纐纈直也
32	北海道大学リサーチアドミニストレーター教育プログラム FY2013	H26. 2.27、H26. 3. 6、H26. 3.13	創成科学研究棟セミナー室 B	利用支援課	城恭子

統　計

基盤統計

蔵書・受入統計

区分	所蔵冊数（平成 26 年 3 月 31 日現在）			受入冊数（平成 25 年度）						
				購入		寄贈		製本		計
	和	洋	計	和	洋	和	洋	和	洋	
本館	1,004,547	825,698	**1,830,245**	5,916	1,244	1,597	1,003	410	232	**10,402**
北図書館	249,158	114,170	**363,328**	4,859	1,635	280	48	20	0	**6,842**
文系小計	181,477	209,137	**390,614**	4,902	4,885	3,676	3,154	1,374	1,624	**19,615**
医薬系小計	128,639	151,475	**280,114**	1,816	246	338	106	588	494	**3,588**
理工系小計	439,895	529,927	**969,822**	2,713	958	3,228	1,720	560	1,510	**10,689**
合計	**2,003,716**	**1,830,407**	**3,834,123**	**20,206**	**8,968**	**9,119**	**6,025**	**2,952**	**3,866**	**51,136**

（文系…法、文、教、経、スラブ　医薬系…医（保健含）、歯、薬、獣医　理工系…理、工、農、水、地、低温、北キ）

雑誌所蔵・受入統計

区分	所蔵種類数（平成 26 年 3 月 31 日現在）			受入冊数（平成 25 年度）				
				購入		寄贈		計
	和	洋	計	和	洋	和	洋	
本館	19,217	12,593	**31,810**	253	66	623	65	**1,007**
北図書館	1,181	559	**1,740**	153	10	14	1	**178**
文系小計	6,471	4,544	**11,015**	1,063	1,199	1,681	140	**4,083**
医薬系小計	5,441	4,372	**9,813**	454	251	730	122	**1,557**
理工系小計	13,508	14,592	**28,100**	792	658	1,214	488	**3,152**
合計	**45,818**	**36,660**	**82,478**	**2,715**	**2,184**	**4,262**	**816**	**9,977**

電子ジャーナル提供タイトル数

出版社系パッケージ	タイトル数		計
	和	洋	
Elsevier（ScienceDirect）		2,262	**2,262**
Springer（Springer LINK）		1,700	**1,700**
Wiley-Blackwell（Wiley Interscience）		1,371	**1,371**
Cambridge Journals Online		335	**335**
Oxford Journals		261	**261**
IEL/IEEE Electronic Library		184	**184**
その他	3	856	**859**
小計	**3**	**6,969**	**6,972**
アグリゲータ系パッケージ	**タイトル数**		**計**
	和	洋	
ProQuest		7,052	**7,052**
EBSCO Academic Search Premier		4,700	**4,700**
Hein Online Standard		1,800	**1,800**
メディカルオンライン	1,055		**1,055**
JSTOR		193	**193**
その他	565	489	**1,054**
小計	**1,620**	**14,234**	**15,854**
合計	**1,623**	**21,203**	**22,826**

電子ブック提供タイトル数

出版社	タイトル数		計
	和	洋	
Springer eBooks		8,283	**8,283**
ACM Digital Library		5,856	**5,856**
Academic search premier		1,362	**1,362**
ScienceDirect Computer Scinece eBook		584	**584**
Wiley-Blackwell Online Books		343	**343**
NetLibrary（eBooks on EBSCOhost）	142	291	**433**
Oxford Reference Online		246	**246**
Methods in Enzymology		224	**224**
ProQuest Health & Medical Complete		161	**161**
Maruzen eBook Library	324	114	**438**
その他	19	357	**376**
合計	**485**	**17,821**	**18,306**

契約データベース一覧

- ABSEES
- ASFA
- Biological Abstracts
- Biological Science Collection
- Book Review Digest
- CAB Abstracts
- CINAHL
- CNKI（中国学術文献オンラインサービス）
- Current Contents
- EconLit
- Global Books in Print
- Global Health
- Humanities Abstracts
- Index to Foreign Legal Periodicals
- INSPEC
- International Political Science Abstracts
- JDreamIII
- Journal Citation Reports
- LexisNexis
- MathSciNet
- Medline
- MLA International Bibliography / Directory of Periodicals
- Oxford English Dictionary
- Oxford Reference Online
- ProQuest Dissertations & Theses
- PsycINFO
- Reaxys
- SciFinder（Academic）
- Sociological Abstracts
- Ulrichsweb
- UpToDate
- Web of Science
- Zoological Record
- 法情報総合データベース（第一法規）
- 医学中央雑誌
- ジャパンナレッジプラス NRK
- LEX/DB インターネット（TKC）
- 日経 BP 記事検索サービス
- 日経テレコン 21

公開データベース一覧

- 北海道大学学術成果コレクション（HUSCAP）
- 北方資料データベース

利用統計

入館者数・貸出冊数

区分	入館者数			貸出冊数		
	学内	学外	計	学生	その他	計
本館	504,977	62,364	**567,341**	153,778	34,991	**188,769**
北図書館	593,273	20,666	**613,939**	153,044	20,708	**173,752**
文系小計	27,622	301	**27,923**	5,913	1,689	**7,602**
医薬系小計	177,924	982	**178,890**	22,590	4,874	**27,464**
理工系小計	237,922	404	**238,326**	44,670	7,073	**51,743**
合計	**1,541,718**	**84,717**	**1,626,419**	**379,995**	**69,335**	**449,330**

相互協力、学内 ILL、レファレンス

区分	相互協力				学内 ILL		レファレンス件数
	複写依頼	複写受付	貸借依頼	貸借受付	依頼	受付	
本館	1,690	1,522	503	1,522	101	160	1,361
北図書館	150	151	35	91	52	8	231
文系小計	1,273	873	565	148	31	32	889
医薬系小計	1,654	3,083	29	29	168	244	1,863
理工系小計	744	2,331	406	201	532	440	2,903
合計	**5,511**	**7,960**	**1,538**	**1,991**	**884**	**884**	**7,247**

＊本館には、文系統合部局（法、教育、経済、スラブ研）を含む。

主要な電子ジャーナルのアクセス件数

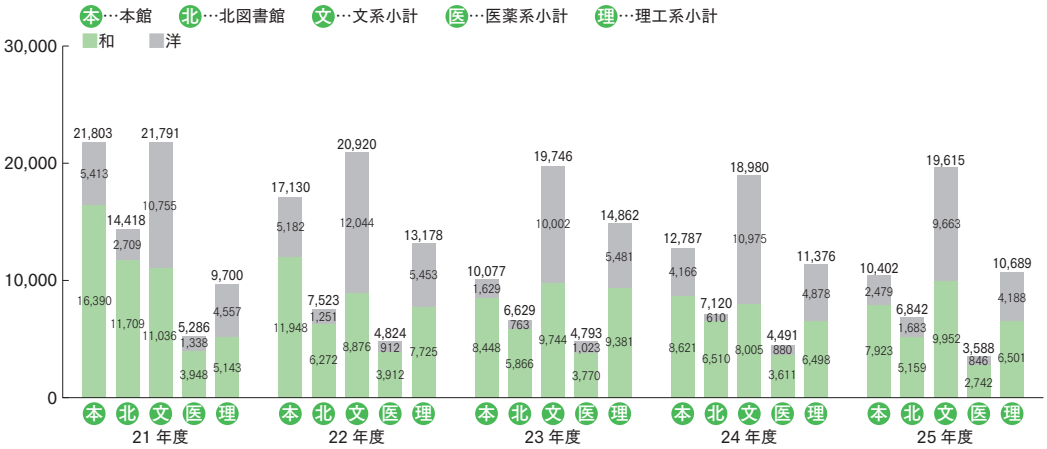
出版社系パッケージ	件数
Elsevier（ScienceDirect）	872,888
Springer（Springer LINK）	203,899
Wiley-Blackwell（Wiley Interscience）	309,695
Cambridge Journals Online	8,696
Oxford Journals	45,890
IEL/IEEE Electronic Library	41,626
その他	445,824
小計	**1,928,518**
アグリゲータ系パッケージ	**件数**
ProQuest	17,416
EBSCO Academic Search Premier	15,248
Hein Online Standard	2,683
メディカルオンライン	77,026
JSTOR	20,166
その他	117,156
小計	**249,695**
合計	**2,178,213**

図書館 HP 等の利用

区分	学内	学外	計
図書館 HP のアクセス数	1,447,154	2,727,448	**4,174,602**
OPAC の検索回数	1,460,262	547,135	**2,007,397**
HUSCAP ダウンロード件数	47,741	7,133,157	**7,180,898**
北方資料データベースアクセス件数	154,244	3,595,928	**3,750,172**
Facebook 総いいね数			**1,575**
Facebook 総記事数			**209**

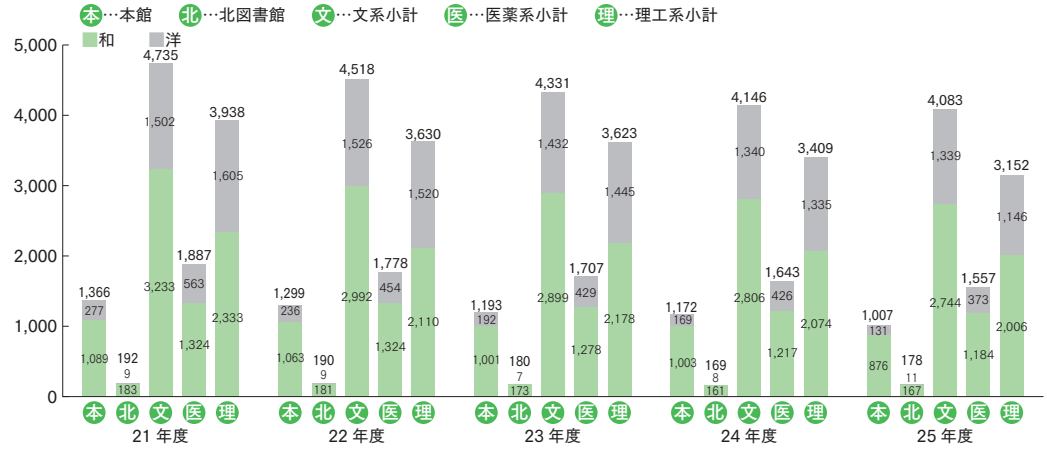
推移と分析（基盤）

過去 5 年の図書受入数の推移（和・洋）



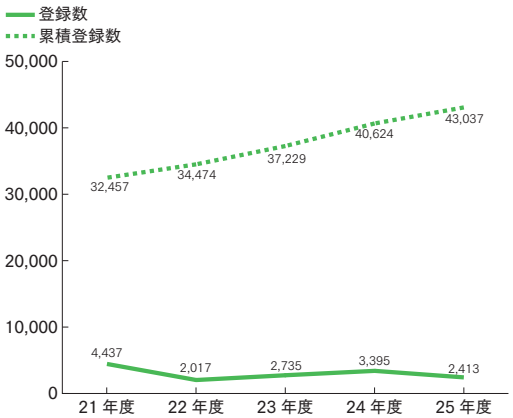
大学の運営費交付金が減少し続けている中で、図書購入費の維持に努めているが、全体的な受入冊数の減少傾向は否めない。なお、21 年度は学生用図書充実のための予算獲得により、本館・北図書館の受入数が増加した。

過去 5 年の雑誌受入種類数の推移（和・洋）



電子ジャーナルへの切り替えが進んでいるため、雑誌受入種類数は全体的に減少傾向である。

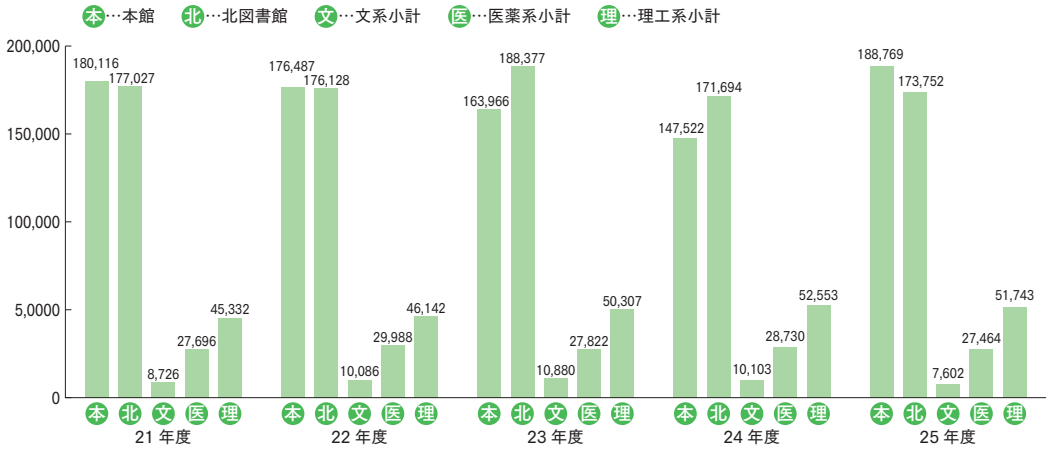
HUSCAP 登録件数の推移



毎年 2,000 件以上の登録を行っている。24 年度は国会図書館による博士論文デジタル化事業の一環として、一括登録できた論文があり、前後の年度より登録件数が多くなっている。また、25 年度からは HUSCAP 経費（特殊要因経費）としての配分がなくなり、外注や業務委託ではなく、部局図書担当との分担登録作業で登録を行っている。

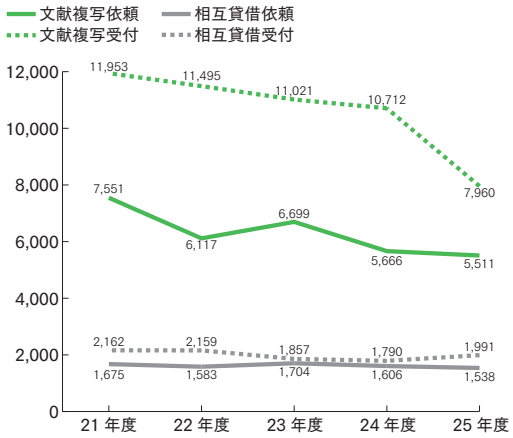
推移と分析（利用）

貸出冊数の推移



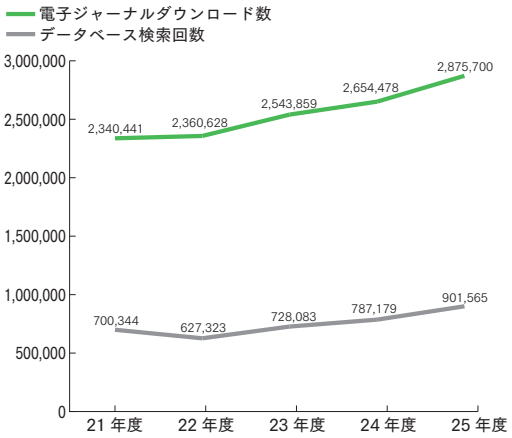
本館は再生事業が完了し、25 年度の貸出数が回復した。北図書館の蔵書数は、本館の 6 分の 1 程度であるが、本館に匹敵する貸出数となっている。

相互利用の推移



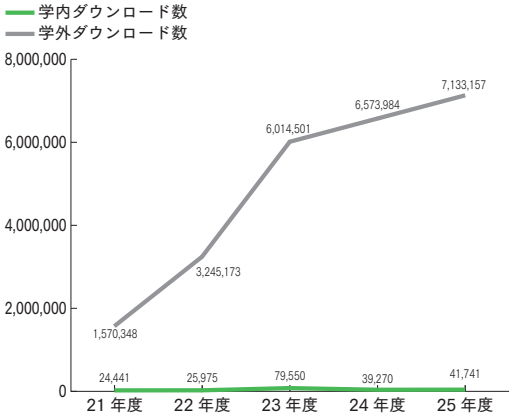
電子ジャーナルやオープンアクセス等の利用環境の向上により、21 年度と比較すると文献複写受付及び文献複写依頼の件数は 30％程度の減少となっている。相互貸借受付及び相互貸借依頼の件数は 10％程度の減少である。

電子ジャーナル・データベース利用の推移



21 年度と比較すると電子ジャーナル・データベースの利用は、20 ～ 30％の利用増となっている。本学の教育研究活動にとって欠くことのできないインフラとして定着している。

HUSCAP 利用の推移



HUSCAP の利用は、学外からの利用が大部分を占め、本学研究者の研究成果を社会に還元する役割を十分に担っている。

図書館委員会名簿

平成 25 年度図書館委員会委員名簿

平成 25 年 4 月 1 日現在

所　属	職　名	氏　名
理事・副学長	館　長	新　田　孝　彦
文学研究科	副館長	望　月　恒　子
文学研究科	教　授	冨　田　康　之
法学研究科	教　授	尾　﨑　一　郎
経済学研究科	教　授	岩　田　　智
医学研究科	教　授	瀬　谷　　司
歯学研究科	准教授	髙　橋　　茂
工学研究院	教　授	石　政　　勉
獣医学研究科	准教授	永　野　昌　志
情報科学研究科	准教授	喜　田　拓　也
水産科学研究院	教　授	一　色　賢　司
地球環境科学研究院	教　授	小　西　克　明
理学研究院	教　授	坂　口　和　靖
薬学研究院	准教授	柴　山　良　彦
農学研究院	教　授	近　藤　　巧
先端生命科学研究院	准教授	福　井　彰　雅
教育学研究院	教　授	西　尾　達　雄
メディア・コミュニケーション研究院	准教授	髙　見　敏　子
保健科学研究院	教　授	石　津　明　洋
公共政策学連携研究部	教　授	眞　壁　　仁
北海道大学病院	教　授	佐々木　秀　直
低温科学研究所	准教授	笠　原　康　裕
電子科学研究所	准教授	上　野　貢　生
遺伝子病制御研究所	教　授	清　野　研一郎
触媒化学研究センター	教　授	大　谷　文　章
スラブ研究センター	教　授	望　月　哲　男
高等教育推進機構	教　授	鈴　木　　誠
附属図書館事務部	部　長	片　山　俊　治
附属図書館管理課	課　長	江　川　和　子
附属図書館利用支援課	課　長	鈴　木　宏　子
附属図書館学術システム課	課　長	片　桐　和　子

平成 26 年度図書館委員会委員名簿

平成 26 年 4 月 1 日現在

所　属	職　名	氏　名
理事・副学長	館　長	新　田　孝　彦
文学研究科	副館長	望　月　恒　子
文学研究科	教　授	加　藤　重　広
法学研究科	教　授	尾　﨑　一　郎
経済学研究科	教　授	荻　野　昭　一
医学研究科	教　授	寺　沢　浩　一
歯学研究科	准教授	髙　橋　　茂
工学研究院	教　授	安　住　和　久
獣医学研究科	准教授	加　藤　大　智
情報科学研究科	准教授	田　中　孝　之
水産科学研究院	教　授	今　井　一　郎
地球環境科学研究院	准教授	佐　竹　暁　子
理学研究院	教　授	小　林　達　夫
薬学研究院	准教授	堺　谷　政　弘
農学研究院	教　授	近　藤　　巧
先端生命科学研究院	准教授	福　井　彰　雅
教育学研究院	教　授	大　野　栄　三
メディア・コミュニケーション研究院	准教授	髙　見　敏　子
保健科学研究院	教　授	井　上　　馨
公共政策学連携研究部	教　授	眞　壁　　仁
北海道大学病院	教　授	佐々木　秀　直
低温科学研究所	准教授	青　木　　茂
電子科学研究所	准教授	上　野　貢　生
遺伝子病制御研究所	教　授	村　上　正　晃（5 月 16 日付）
触媒化学研究センター	教　授	西　田　まゆみ
スラブ・ユーラシア研究センター	教　授	岩　下　明　裕
高等教育推進機構	准教授	三　上　直　之
附属図書館事務部	部　長	富　田　健　市
附属図書館管理課	課　長	江　川　和　子
附属図書館利用支援課	課　長	豊　田　裕　昭
附属図書館学術システム課	課　長	片　桐　和　子

平成 25 年度北図書館委員会委員名簿

平成 25 年 7 月 1 日現在

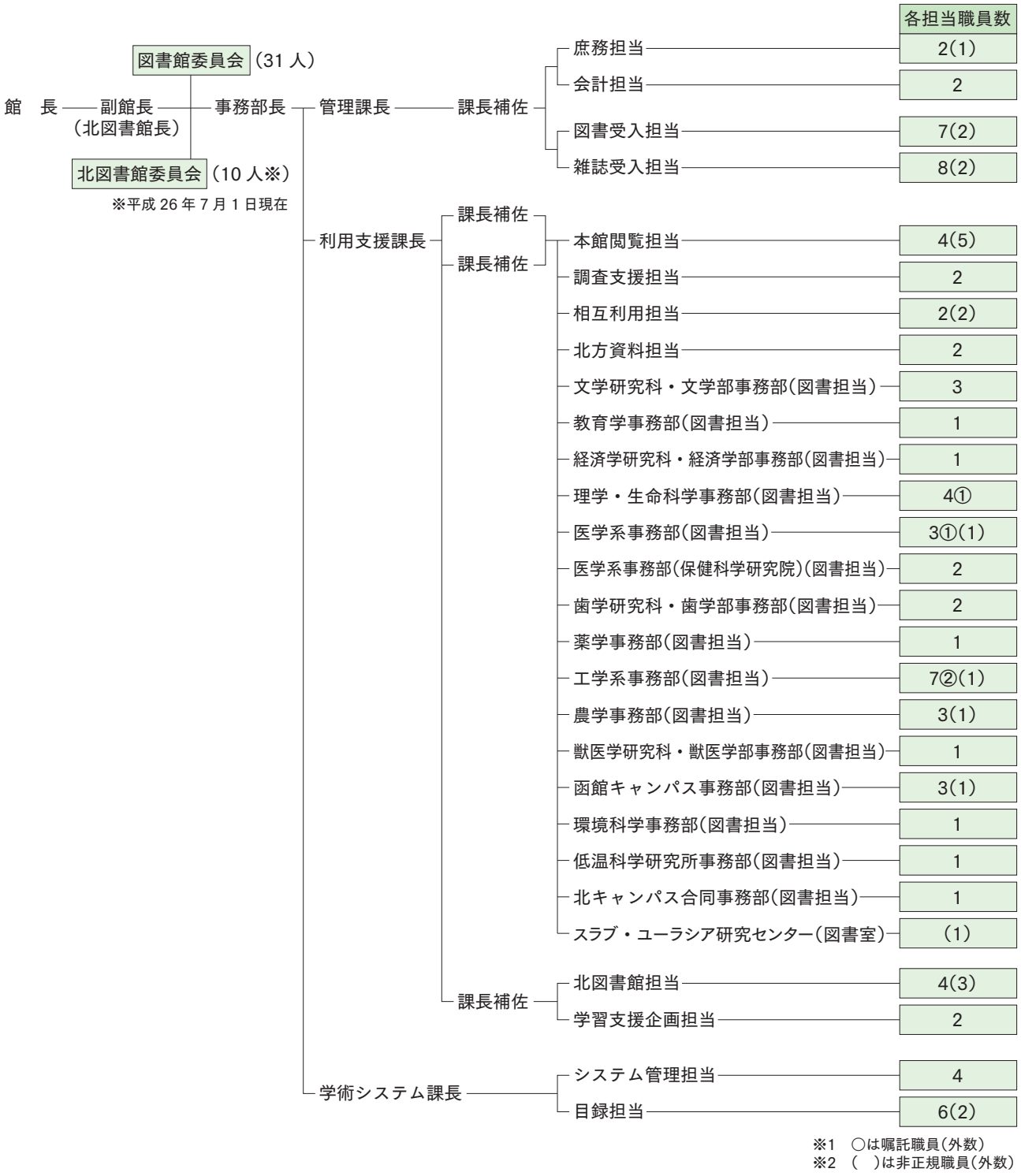
所　属	職　名	氏　名
文学研究科	北図書館長	望　月　恒　子
文学研究科	教　授	冨　田　康　之
法学研究科	教　授	尾　﨑　一　郎
歯学研究科	准教授	髙　橋　　茂
理学研究院	教　授	坂　口　和　靖
農学研究院	教　授	近　藤　　巧
メディア・コミュニケーション研究院	准教授	髙　見　敏　子
高等教育推進機構	教　授	鈴　木　　誠
文学研究科	准教授	大　西　郁　夫
理学研究院	准教授	高　橋　正　行

平成 26 年度北図書館委員会委員名簿

平成 26 年 7 月 1 日現在

所　属	職　名	氏　名
文学研究科	北図書館長	望　月　恒　子
文学研究科	教　授	加　藤　重　広
教育学研究院	教　授	大　野　栄　三
医学研究科	教　授	寺　沢　浩　一
理学研究院	教　授	小　林　達　夫
薬学研究院	准教授	堺　谷　政　弘
メディア・コミュニケーション研究院	准教授	髙　見　敏　子
高等教育推進機構	准教授	三　上　直　之
理学研究院	教　授	利根川　吉　廣
外国語教育センター	教　授	鈴　木　志のぶ

事務組織（平成 26 年 4 月 1 日現在）



※1　○は嘱託職員（外数）
※2　（　）は非正規職員（外数）

職　名	事務部長	課　長	課長補佐	係　長	係員等	合　計
計	1 人	3 人	4 人	28 人	51【26】人	87【26】人

※【　】は嘱託職員及び非正規職員で外数

人事往来（平成 25 年 3 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日）

【平成 25 年 3 月 31 日付発令】

［定年］

杉　田　福　夫	附属図書館管理課長
伊　藤　ますみ	附属図書館管理課課長補佐
川　端　美　明	附属図書館利用支援課付係長（教育学事務部）
福盛田　　勉	附属図書館利用支援課付係長（北キャンパス合同事務部）

［辞職］

山　本　和　雄	附属図書館学術システム課長（横浜国立大学図書館・情報部図書館情報課長へ）
小　坂　麻衣子	附属図書館利用支援課（調査支援担当）
松　野　とも子	附属図書館利用支援課付（医学系事務部（保健科学研究院））

［嘱託職員任期満了］

小　峰　邦　夫	附属図書館管理課付（嘱託職員）（庶務担当）

【平成 25 年 4 月 1 日付発令】

新　田　孝　彦	附属図書館長（期間　平成 27 年 3 月 31 日まで）
望　月　恒　子	附属図書館北図書館長（期間　平成 27 年 3 月 31 日まで）

［採用・昇任・配置換等］

江　川　和　子	附属図書館管理課長［お茶の水女子大学図書・情報チームリーダー］
片　桐　和　子	附属図書館学術システム課長［北見工業大学情報図書課長］
吉　田　恭　子	附属図書館管理課課長補佐［附属図書館利用支援課課長補佐］
首　藤　佳　子	附属図書館利用支援課課長補佐［附属図書館利用支援課付係長（工学系事務部）］
中　村　　陽	附属図書館管理課係長（雑誌受入担当）［附属図書館利用支援課係長（本館閲覧担当）］
平　田　栄　夫	附属図書館管理課係長（図書受入担当）［附属図書館学術システム課（目録担当）］
菊　池　満　史	附属図書館利用支援課付係長（工学系事務部）［附属図書館利用支援課係長（北図書館担当）］
佐々木　　圭	附属図書館利用支援課付係長（教育学事務部）［附属図書館管理課係長（図書受入担当）］
髙　野　直　樹	附属図書館利用支援課付係長（経済学研究科・経済学部事務部）［附属図書館管理課係長（雑誌受入担当）］
横　井　有　紀	附属図書館利用支援課係長（北図書館担当）［附属図書館利用支援課付係長（経済学研究科・経済学部事務部）］
茶　屋　容　子	附属図書館学術システム課係長（目録担当）［秋田大学図書館情報推進課主査］
田　邉　千　雪	附属図書館利用支援課付係長（北キャンパス合同事務部）［小樽商科大学学術情報課閲覧係長］
中　道　敦　子	附属図書館利用支援課主任（北図書館担当）［附属図書館学術システム課主任（目録担当）］
佐　藤　亜　紀	附属図書館管理課（雑誌受入担当）［山形大学医学部事務部学務課図書担当］
紙　谷　五　月	附属図書館利用支援課（本館閲覧担当）［附属図書館管理課（雑誌受入担当）］
城　　恭　子	附属図書館利用支援課（調査支援担当）［附属図書館学術システム課（システム管理担当）］
笠　井　美由紀	附属図書館利用支援課付（歯学研究科・歯学部事務部）［附属図書館利用支援課（相互利用担当）］
川　村　路　代	附属図書館利用支援課付（医学系事務部）［附属図書館管理課（図書受入担当）］
菊　地　隆　憲	附属図書館利用支援課付（工学系事務部）［附属図書館管理課（雑誌受入担当）］
大　甕　あさみ	附属図書館学術システム課（目録担当）［附属図書館管理課（雑誌受入担当）］
纐　纈　直　也	附属図書館学術システム課（目録担当）［附属図書館利用支援課付（工学系事務部）］
佐々木　　翼	附属図書館学術システム課（システム管理担当）［附属図書館利用支援課（本館閲覧担当）］
平　野　　知	附属図書館利用支援課付（理学・生命科学事務部）［附属図書館利用支援課付（工学系事務部）］
福　井　みゆき	附属図書館利用支援課付（医学系事務部）［附属図書館利用支援課付（工学系事務部）］
見　目　亜紀子	附属図書館利用支援課付（医学系事務部（保健科学研究院））［附属図書館利用支援課付（医学系事務部）］
石　森　久　美	附属図書館利用支援課付（医学系事務部（保健科学研究院））［附属図書館利用支援課付（理学・生命科学事務部）］
佐　藤　　剛	附属図書館利用支援課付（工学系事務部）［附属図書館利用支援課付（理学・生命科学事務部）］
成　田　り　さ	附属図書館利用支援課付（工学系事務部）［附属図書館利用支援課付（歯学研究科・歯学部事務部）］
山　崎　佳　子	附属図書館管理課（雑誌受入担当）
守　内　美　月	附属図書館管理課（雑誌受入担当）
芝　　翔太郎	附属図書館利用支援課（本館閲覧担当）
栗　田　とも子	附属図書館利用支援課（相互利用担当）
川　端　美　明	附属図書館利用支援課付（嘱託職員）（理学・生命科学事務部）
福盛田　　勉	附属図書館利用支援課付（嘱託職員）（工学系事務部）

［出向］

結　城　憲　司	室蘭工業大学図書・学術情報事務室ユニットマネージャー［附属図書館学術システム課係長（目録担当）］
三　浦　千　穂	小樽商科大学学術情報課雑誌係長［利用支援課（北図書館担当）］
細　井　真弓美	旭川医科大学教務部図書館情報課係長［利用支援課付（医学系事務部）］

【平成 25 年 7 月 31 日付発令】

［辞職］

武　田　靖　恵	附属図書館利用支援課付（文学研究科・文学部事務部）

【平成 25 年 10 月 1 日付発令】

［採用・配置換］

中　村　瑞　穂	附属図書館管理課（図書受入担当）
前　田　翔　太	附属図書館管理課（図書受入担当）
中　林　ゆかり	附属図書館管理課主任（庶務担当）［北方生物圏フィールド科学センター主任（庶務担当）］
平　館　真希子	附属図書館利用支援課付（文学研究科・文学部事務部）［附属図書館管理課（図書受入担当）］

［転出］

山　本　絹　子	文学研究科・文学部事務部主任（庶務担当）［附属図書館管理課主任（庶務担当）］

【平成 26 年 3 月 31 日付発令】

［定年］

片　山　俊　治	附属図書館事務部長
吉　田　恭　子	附属図書館管理課課長補佐
井手上　恵　子	附属図書館利用支援課課長補佐
桑　野　勇　次	附属図書館利用支援課付係長（獣医学研究科・獣医学部事務部）

［辞職］

鈴　木　宏　子	附属図書館利用支援課長（一橋大学学術・図書部学術情報課長へ）

北海道大学附属図書館年報 2014

発行　平成 26 年 8 月
編集　北海道大学附属図書館
〒 060-0808　札幌市北区北 8 条西 5 丁目
TEL：011-706-2967　FAX：011-706-2855
Homepage：http://www.lib.hokudai.ac.jp
Facebook：https://www.facebook.com/hokudailibrary